

日本地球惑星科学連合ニュースレター Vol. **22**  
May, 2026 No. **2**

## NEWS

JpGU JpGU 2026年大会 (JpGU-AGU 2026)のお知らせ	1
中高地学教育関係者情報交換会 開催報告	21
ぶらりがく for ハイスクール with JpGU 開催報告	21
学術会議だより	22

## TOPICS

南海トラフ地震発生評価: 物理的拘束と「不確かさの幅」の提示	23
高精度地形情報が拓く自然地理学の新地平	25

## BOOK REVIEW

理科年表2026	27
INFORMATION	28

# JGL

Japan Geoscience Letters

2026 No. **2**

## NEWS

## JpGU 2026年大会 (JpGU-AGU 2026)のお知らせ

### 大会の概要

2026年大会 (JpGU-AGU Joint Meeting) は現地とオンラインのハイブリッドで開催します。

## 開催日時

2026年5月24日 (日) ~ 5月29日 (金)

## 会場

現地会場：幕張メッセ国際会議場、国際展示場ホール7・8

(千葉県千葉市美浜区中瀬2-1)

オンライン会場：Confit システム (以下 Confit)

[https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2026/participant\\_login](https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2026/participant_login)

## 発表方法

## 口頭発表

現地会場及び Zoom での会場中継。

現地とオンラインどちらでも自由に選択可能です。

## ポスター発表

## オンラインポスター

オンライン上でポスターを公開します。

オンラインコアタイムはありません。

ポスターフラッシュトークはありません。

現地とオンラインどちらでも自由に選択可能です。

## 現地ポスター発表

現地会場掲示。

現地参加のみ、オンラインでの参加手段は用意しておりません。

## 大会参加準備マニュアル

[https://www.jpгу.org/meeting\\_j2026/files/preparation\\_manual\\_j.pdf](https://www.jpгу.org/meeting_j2026/files/preparation_manual_j.pdf)

### タイムテーブル

AM 1 : 09:00 ~ 10:30

AM 2 : 10:45 ~ 12:15

Lunchtime : 12:15 ~ 13:45

PM 1 : 13:45 ~ 15:15

PM 2 : 15:30 ~ 17:00

PM 3 : 17:15 ~ 19:00

※口頭発表は原則 AM 1, AM 2, PM 1, PM 2 の中で行います。

※ PM 3 は現地ポスターコアタイムです。

### 大会言語

セッションで使用する言語は、各セッションタイトルの前についての言語記号 (E または J) をご確認ください。

E : 発表資料・発表言語 : 英語

J : 発表資料・発表言語 : 英語または日本語 (任意)

### 参加登録

大会にご参加いただくためには参加登録が必要です。

## 参加登録方法

会員画面にログインし、参加登録と参加費の決済を行ってください。参加には必ず JpGU の ID が必要です (パブリックセッションの聴講を除く)。

会員ログイン URL : <https://www.jpгу-member.org/jpgu/ja/>

※新規の ID もこの URL から取得できませんが、正会員と大会参加 ID

で参加費が大きく異なりますので必ず事前に違いをご確認ください。

ID 取得後に大会参加 ID から正会員に ID を変更するはできません。

参考 : [https://www.jpгу.org/meeting\\_j2026/about.php#about\\_registration\\_fee](https://www.jpгу.org/meeting_j2026/about.php#about_registration_fee)

## 参加登録締切

5月14日 (木) 23:59JST で一度締め切ります。

※5月15日からオンライン大会参加システム Confit にログイン制限がかかり、参加登録済の方しか閲覧できなくなるため、5月14日までに参加登録がお済の方にはお待たせすることなく Confit へログインができるようにいたします。

※発表者の参加登録はすでに締め切っております。

5月15日以降の参加登録については、登録日の翌日9:00から Confit ヘログインができるようになります。発表者や座長、コンピナーであっても、登録日当日のログインはできませんのでご注意ください

#### 参加登録費

JpGU 正会員、AGU 会員、AOGS 会員、EGU 会員：会員割引料金  
大会参加 ID：非会員料金

	会員割引料金	非会員料金 ※割引なし
一般	¥31,020	¥44,220
小中高教員	無料	¥21,120
大学院生	¥14,300	¥21,120
シニア（正会員のみ）	¥14,300	-
学部生以下	無料	

#### 2026年度大会参加 ID（26から始まる ID）をお持ちの方へ

大会参加 ID をお持ちの方へは会員割引料金は適用されません。非会員料金となりますのでご注意ください。

#### シニア正会員の方へ

シニア料金を適用するには身分がシニアである必要があります。身分は自動では切り替わりませんので、ご自身で会員画面から身分を変更をした後に参加登録を行ってください。

#### 中高生及び大学生の方へ

大学学部生以下の方は無料で全てのセッションにご参加いただけます。

JpGU の ID（年会費不要、準会員 ID / 大会参加 ID 問わず）を取得して参加登録（無料）を行ってください。

JpGU の ID はこちらの URL から取得できます。

<https://www.jpгу-member.org/jpgu/ja/>

#### 小中高教員及び学部生以下の方の身分証明について

お申込み後に、教員であることを証明できるもの（保険証などの所属情報を確認できるもの）／学生証の提出が必要となりますのでご了承ください。

#### キャンセルポリシー

参加の有無に関わらず、決済された登録料を返金することはできませんので予めご了承ください。

## 大会マニュアル

最新の参加者向けマニュアルをこちらのページで公開します。ぜひ事前にご確認ください。

[https://www.jpгу.org/meeting\\_j2026/manual\\_archive.html](https://www.jpгу.org/meeting_j2026/manual_archive.html)

## パブリックデーについて

5月24日（日）はパブリックデーとし、一般の方に無料でご参加いただけるパブリックセッションを13件企画しております。セッションの詳細やプログラムはP6にてご紹介しています。

- O-01 地球・惑星科学トップセミナー
- O-02 気候変動と再生可能エネルギー利用の課題
- O-03 予測できる海!?! ～国連海洋科学の10年の挑戦～
- O-04 ジオパークとサステナビリティ（口頭招待講演）
- O-05 地質と文化ー神話・伝承・民俗文化の地球科学（地球神話学）

- O-06 気候変動をまなぶ・ひらく・つなぐ - 若者と研究者で語ろう -
- O-07 環境教育のすすめ：地球の熱収支を考える
- O-08 地球が育む食文化～ジオパーク・ガストロノミーと食文化の未来～
- O-09 キッチン地球科学：多様な到達点を生む実験
- O-10 可視化と表象：地球科学とアートが捉える不可視の世界
- O-11 西之島と小笠原諸島の火山たち：ダイナミックな活動を見つめて
- O-12 高校生ポスター発表
- O-13 International Poster Session for high school students

#### パブリックセッションのみへの参加方法

現地来場の方

下記 URL から必要情報を登録し、入場用 e チケットを発行して、会場へご持参ください。

※ e - チケットをご提示（画面表示も可）いただけない場合、会場に入場できません。現地に参加登録窓口はありませんので、ご来場前に登録をお済ませください。

<https://www.jpгу-member.org/meeting/public/>

入場（受付）開始時間 8:00  
講演会場開場時間 8:30

ご希望のセッションに間に合うようにお越しください。セッション開始後も会場内は入退室自由ですが他の方のご迷惑にならないようにご移動ください。

口頭発表へのオンライン参加をご希望の方

下記 URL から申込フォームにアクセスし、メールアドレスを入力してください。オンライン会場となる Zoom の入室に必要な URL とパスワードをお送りします。

<https://business.form-mailer.jp/fms/593f8663144497>

## 参加方法

現地参加とオンライン参加はどちらも自由にお選びいただけます。

#### 現地参加

参加登録をお済ませいただき、e チケットをご持参の上、直接現地までご来場ください。

#### オンライン参加

オンライン会場 Confit にログインしてください。

#### 現地参加・オンライン参加共通

##### Confit へのログイン方法

5月15日（金）より、予稿 PDF が Confit 上で公開され、参加登録を行った方が Confit にログインできるようになります（それ以前はあなたでも閲覧できるため、ログイン画面は表示されません）。参加登録を行っていない方が予稿 PDF を閲覧する方法はありません（パブリックセッションを除く）。

〈Confit にログインするための URL〉

[https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2026/participant\\_login](https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2026/participant_login)

〈Confit にログインするための ID〉

・参加登録をいただいた JpGU の会員 ID を使用してください。

〈Confit にログインするためのパスワード〉

・Confit へは JpGU の会員システムで使用しているパスワードではログインできません。

初回アクセス時に「初回ログイン用パスワード設定」のリンクから、ご自身で Confit ログイン専用のパスワードを設定していただきます。

・設定済みのパスワードの問い合わせもログイン画面の「パスワードを

「忘れた方はこちら」のリンクからご自身で行ってください。  
 ※セキュリティ上、事務局からパスワードの通知を行うことやパスワードをお教えすることはできませんので必ずご自身でパスワードの管理をお願いします。

### プレスの方のご参加について

#### JpGU-AGU 2026 年度大会取材いただく報道関係者の皆様へのお願い

報道関係者の皆様には日本地球惑星科学連合大会の取材をご検討いただき、ありがとうございます。  
 JpGU-AGU 2026 年度大会の取材には、オンライン・現地での取材にかかわらず事前登録が必要です。  
 ご登録いただいた方へ、幕張メッセ現地会場へ入場するための eチケットと、オンライン会場 (Confit システム) へログインするための ID を発行します。参加希望日の前日までに申し込みください。プレス用参加登録日程などの詳細は、下記特設ページをご覧ください。

#### JpGU プレス向けポータルサイト

<https://sites.google.com/jpgu.org/jpgu-press-team>

〈推奨ブラウザ〉

Firefox 最新版 / Safari 最新版 / Chrome 最新版 / Microsoft Edge 最新版推奨ブラウザ以外では、全ての機能をご利用できない場合があります。

お持ちでない場合は、それぞれ無料でダウンロードできますので、インストールまたはバージョンアップしてご利用ください。

### セッションでの発表・聴講について

#### ■口頭発表

タイムテーブルに表示されているお部屋へ自由にご入室ください。入退室は自由です。オンラインは Confit の口頭発表のタイムテーブルから、各セッションの Zoom に入室してください。

#### 発表者の方へ：

現地発表は会場に用意されたパソコン (Win11) または各自ご持参いただいたパソコンを Zoom に接続して行っていただけます。そのためには、配信用機器への HDMI 接続と、インターネットへの接続が必要になります。

オンライン発表の場合は、Confit の口頭発表のタイムテーブルから、Zoom に入室して発表してください。

#### ■ポスター発表

ポスター発表には、

1. 発表資料のオンライン掲示
  2. 現地ポスター発表
- の2つの発表機会があります。

#### [発表資料のオンライン掲示]

発表者が事前に発表資料を Confit にアップロードしますので、Confit にログイン後、各発表の詳細画面からご覧いただけます。

#### [現地ポスター発表]

会期中、指定された一日で現地ポスター発表が行われます。発表者がボード前に待機するコアタイムは PM3 の時間帯ですが、ポスターは終日 (発表者が掲示したときから PM3 の終了時間まで) 掲示されており、コアタイムに限らず自由にポスターをご覧いただけます。

#### 発表者の方へ：

##### [発表資料の Confit へのアップロード] (必須)

多くの方が閲覧できるよう、大会3日前の5月21日 (木) までにアップロードすることをお勧めします (5月22日以降もアップロードや修正は可能です)。

##### [現地ポスター発表] (任意)

PM 3 (コアタイム) 開始までに割り当てられたボードに持参したポスターを掲示しておいてください。PM 3 はできる限りご自身のポスターの前にいるようにしてください。

現地へ来場できない場合でも、現地会場にポスターを掲示するこ

とは可能です。ご自身で掲示を依頼される方を手配されても (掲示する方も会場内に入るには参加登録が必要です)、JpGU へポスターを宅配便にてお送りいただいてもかまいません。詳細は大会ウェブページをご確認ください。

#### ■発表ができなくなってしまったとき

投稿後にやむを得ない事情により発表ができなくなったとき、下記の条件をすべて満たす場合に限り、共著者の一人が代理発表者となることを認めます。

[https://www.jpgu.org/meeting\\_j2026/presentation.php#unable\\_to\\_present](https://www.jpgu.org/meeting_j2026/presentation.php#unable_to_present)

代理発表の手配ができない場合には、投稿者が直接コンピーナに発表ができない旨 (発表キャンセル) を連絡してください。

[https://www.jpgu.org/meeting\\_j2026/presentation.php#cancellation](https://www.jpgu.org/meeting_j2026/presentation.php#cancellation)  
 事務局に直接メール等でご連絡いただいても対応できませんのでご了承ください。

### 大会プログラム

発表日時等を大会プログラムにてご確認ください。

#### 大会プログラム URL：

[http://www.jpgu.org/meeting\\_j2026/sessionlist\\_jp/](http://www.jpgu.org/meeting_j2026/sessionlist_jp/)  
 参加登録の有無に関わらずどなたでもご覧いただけます。

#### オンライン参加システム Confit URL：

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2026/top>

5月14日 (木) までとはどなたでもご覧いただけます。

予稿 PDF 公開後の5月15日 (金) 以降は参加登録者のみがログインできます。

### 参 加形態 (現地/オンライン) の通知について

発表者が現地に来場するのか、オンラインで発表するのかは、座長、コンピーナ、また聴講者にとっても重要な情報となります。

Confit 上から、マッチングフラグ機能を使い、発表日に限らず各日毎に「現地来場予定」「オンライン参加予定」「不参加」を登録できますので、事前のご登録にご協力ください。

#### 登録方法：

Confit にログイン後、「マイメニュー/マイプロフィール」を開き、右上にある「編集」ボタンから登録できます。

### 参 加のルールや規定

皆様に安心して大会へご参加いただけるよう、発表資料の取り扱いに関するポリシーを設けております。ぜひ一読いただいた上で大会へご参加ください。

#### オンライン発表資料取扱ポリシー：

[http://www.jpgu.org/meeting\\_j2026/rule/pre\\_material\\_policy.html](http://www.jpgu.org/meeting_j2026/rule/pre_material_policy.html)

### 現 地会場のご案内

会場に入るためには、名札を下げいただく必要があります。名札は初来場時に幕張メッセ国際会議場 1F にて発券します。2日目以降は発券済みの名札を必ずご持参ください。名札を付けていない方の入場は各入口でお断りしております。

#### 名札発券可能時間

期間中、毎日 8:00 ~ 18:30

※5月23日(土)は17:00～18:30に限り翌日からの大会の名札発券を受け付けます。初日の朝は混みあいますので、前日に幕張に到着の方はぜひご利用ください。

#### 開場時間

国際会議場 1F 入り口 8:00～19:30  
 国際会議場 2F 連絡通路 8:30～19:00  
 国際展示場 8:30～19:00  
 ※上記時間以外は施錠します。

#### 現地受付について

現地に受付スタッフはおりません。現地での参加登録はできませんので、必ずご来場前に全ての手続き(来場前日までの参加登録及び決済、身分の変更等)をオンライン上で済ませてください。手続きを完了させずに現地にご来場いただいても、身分の変更や名札の紛失等も全てオンラインでの対応となりますので、ご入場までにお時間をいただきます。(現地のスタッフに直接お声がけいただいても業務が異なるため対応できず、オンライン手続きをご案内できるのみとなります)スムーズな入場のために、入場用e-チケットのご持参を必ずお願いいたします(スマートフォンやパソコン上での表示も可能です)。

#### 会場内での飲食について

ランチタイムスペシャルレクチャーを除き、講演・セッション中の水分補給以外の飲食はご遠慮ください。国際会議場内で開かれる会合では、あらかじめご注文いただいたお弁当を召し上がっていただくことは可能です。展示場の休憩エリアは持ち込みも含め飲食可能です。また、ランチ販売も行います。

## 会場及び参加者サービス

詳しくは大会ウェブページにてご確認ください。  
[https://www.jpгу.org/meeting\\_j2026/service.php](https://www.jpгу.org/meeting_j2026/service.php)

## 会 期中のお問合わせ

会期中のお問合わせは大会ウェブページよりご確認ください。各種お問合わせ先情報：  
[http://www.jpгу.org/meeting\\_j2026/contact.php](http://www.jpгу.org/meeting_j2026/contact.php)  
 ※現地入場に関するトラブルも上記ページからご連絡ください。

## セッションコンピーナからのお知らせ

発表内容の変更等のコンピーナから参加者の皆様へのお知らせを、大会ウェブページ上の「セッションからのお知らせ」にて公開します。参加予定のセッションの情報が公開されていないかご確認ください。発表者の方への連絡についてはコンピーナから発表者に連絡をするためのものと、参加者・発表者がコンピーナに問合わせをするための2種類のメールリストをご用意しています。詳しい使い方などは大会マニュアルなどをご参照ください。

## 表彰式

日時：5月27日(水) 17:15～18:30  
 会場：国際展示場ホール7ステージエリア  
 参加方法：大会参加者はどなたでもご参加いただけます。  
 ・現地参加：会場に直接おこしください。

2026年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー  
 2026年度公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞(三宅賞)  
 2026年度公益社団法人日本地球惑星科学連合国際貢献賞  
 2026年度連合会長賞  
 日本地球惑星科学連合和達賞(固体地球科学セクション賞)  
 Introduction of The Asahiko Taira International Scientific Ocean Drilling Research Prize recipient

## 懇親会

三度目のJpGU-AGU Joint Meetingを記念して、今年はホテルザ・マンハッタン/プリマヴェーラでの開催です。参加者の皆様にとって、研究交流や意見交換を深めるよい機会となりますので、ぜひご参加ください。  
 日時：5月27日(水) 19:15～  
 会場：ホテルザ・マンハッタン/プリマヴェーラ  
 参加方法：会員ログイン画面から参加申込と参加費の決済をしてください。一般早期登録7,000円(税込)/一般通常登録9,000円(税込)/学生は早期・通常ともに3,000円(税込)  
 ※当日参加であっても現地決済は行いません。会員画面からのお支払いをお願いします。

## プレナリーレクチャー

JpGU-AGU Joint Meeting 2026では、プレナリーレクチャーを開催いたします。多くの皆様の聴講をお待ちしております。  
 日時：2026年5月25日(月)～28日(木) ランチタイム  
 開催場所：国際会議場コンベンションホールA  
 参加方法：大会参加者はどなたでもご参加いただけます。  
 ・現地参加：会場に直接おこしください。  
 ・オンライン参加：大会サイト(Confit)のタイムテーブルにあるプレナリーレクチャー(5/16頃掲載予定)からZoomにご参加下さい。  
 <講演予定>  
 5月25日(月) Presidential Forum Lecture  
 Prof. Kate Kitagawa (La Trobe University, Australia)  
 A Space-Age Conversation:  
 “Thriving in the Space Age: Global Science, New Opportunities, and Expanding Networks”  
 5月26日(火) Frontiers of Science Lecture  
 Prof. Shang-Ping Xie (University of California San Diego, USA)  
 Making sense of Pacific Ocean warming patterns and the teleconnections during satellite era  
 5月27日(水) Leadership Lecture  
 Prof. Karin Markides (Okinawa Institute of Science and Technology)  
 Leadership disruption to overcome destruction: Forging system-wide responses to our climate crisis  
 5月28日(木) Frontiers of Science Lecture  
 Prof. Jun Korenaga (Yale University)  
 On Beginnings: Early Earth, Life, and the Practice of Scientific Creativity  
 詳細は下記ページをご覧ください。  
[https://www.jpгу.org/meeting\\_j2026/plenary\\_lectures.php](https://www.jpгу.org/meeting_j2026/plenary_lectures.php)

## 中高生・大学生向けイベント

詳細や参加方法は必ず大会HPからご確認ください。  
[https://www.jpгу.org/meeting\\_j2026/event.php](https://www.jpгу.org/meeting_j2026/event.php)

◎ハイパーウォール講演会

JAMSTEC と JAXA がハイパーウォールを使って講演会を行います。  
・JAMSTEC

「日本列島ご当地自慢 第2弾」日本列島はどのようにできたのか？みんなの足元からその地史を読み解く

2026年5月24日(日) 12:15～13:45

全国各地から参加する高校生に、日本列島の地盤がどのような地史をたどって現在の姿になったか、各地の歴史を理解し、発表を行っていただきます。他校の発表を見聞きし、研究者による評価を受けることで、学習効果を高めてもらい、次世代の地球科学分野の人材育成につなげることを目的としています。

・JAXA

JAXA 中高生向けハイパーウォール講演会

2026年5月24日(日) 16:45～18:45、5月28日(木) 16:00～18:00  
次世代の宇宙科学を担う中高生向けに、JAXA で最前線に立つ研究者が最新の研究状況を分かりやすく伝えます。講演後に交流会がごさいます。

※要参加申込

詳しくはHP をご参照ください。

[https://www.jpgu.org/meeting\\_j2026/event.php](https://www.jpgu.org/meeting_j2026/event.php)

## その他各種イベント

詳細は大会 HP でご確認ください。

[http://www.jpgu.org/meeting\\_j2026/event.php](http://www.jpgu.org/meeting_j2026/event.php)

5月24日(日)

●荒木健太郎博士『すぎすぎる天気の本』シリーズ 著者サイン会

場所：展示場8ホールガラス部屋

時間：10:45～13:45

●GeoSciAI2026表彰式

場所：特設会場①

時間：12:15～13:30

●ダジック・アースを学校やアウトリーチで使ってみませんか

場所：展示場ホール内の特設会場⑧

時間：12:30～13:30

●JAMSTEC ハイパーウォール企画 高校参加型企画 High School Participation Project 日本列島の記憶を辿る ～地域の地史を深掘りする学びの場～

場所：ステージエリア

時間：12:15～13:45

●JAXA 中高生向けハイパーウォール講演会

場所：ステージエリア

時間：16:45～18:45

●Into the Core - Live at JpGU-AGU 2026

場所：特設会場3(展示場)

時間：ランチタイム(12:30-13:30)

●宇宙惑星科学ランチョン

場所：CH-B

時間：12:15～13:45

●JpGU スーパーレッスン『小型分光器で身の回りのものを計測』

場所：105会場

時間：PM 1(13:45～15:15)

●ECR Kickoff Mixer

場所：MAKUHARI BREWERY

時間：19:30～21:30

●地球惑星科学系のキャンパスライフとキャリアパス【中高・大学生向けイベント】

場所：展示場休憩エリア特設会場①横

時間：終日

●サイエンス・キャリアトーク：国内大学院以外の選択肢

場所：展示場休憩エリア特設会場①横

時間：終日

5月25日(月)

●GeoFut26

場所：JFA 夢フィールド

時間：19:00～21:00

●超高層大気データ解析・ハンズオン・トレーニング

場所：301A 会場

時間：PM 2(15:30～17:00)

5月26日(火)

●インターナショナル・ミキサー・モーニング・レセプション

場所：ホテルニューオータニ幕張 シェルハウス

時間：8:00～8:45

5月27日(水)

●懇親会

場所：ホテル ザ・マンハッタン / プリマヴェーラ

時間：19:15～

●ジオラン&ウォーク2026

場所：千葉県立幕張海浜公園 Gブロック

時間：7:40～8:20

●表彰式

場所：ステージエリア

時間：17:15～

5月28日(木)

●Into the Core - Live at JpGU-AGU 2026

場所：特設会場3(展示場)

時間：PM 2(15:30～17:00)

●「浮世」と「揺れる大地」―風景と災害をめぐる視覚的知識としての浮世絵

場所：特設会場①

時間：PM 3(17:15～19:00)

●JAXA 中高生向けハイパーウォール講演会

場所：ステージエリア

時間：16:00～18:00

●Concert-presentation

場所：IC

時間：17:30～18:30

5月29日(金)

●JpGU スーパーレッスン『深層学習による地震波形データ解析』

場所：103会場

時間：15:30～17:00

その他

●NGT (Network Get-Together)

場所：展示場

時間：大会期間中18:30～

●出展者セミナー

場所：ステージエリア

時間：ホームページに掲載

●スタンプラリー

場所：展示場ホール

時間：終日

●就活支援イベント

場所：展示場休憩エリア特設会場①横

時間：詳細は後日 URL を参照：<https://sites.google.com/jpgu.org/jpguidiv/index/2026/jobhunting>

## ●ジオイTシャツ屋さん

場所：国際会議場2F Pub.01

時間：終日（閉まっている時間もあります）

## 巡検

コース①5月25日（月）日帰り【都心の石材 viewing！】

コース②5月26日（火）日帰り【地質標本館と筑波山地域ジオパーク】

コース③5月26日（火）日帰り【南極観測船 SHIRASE &amp; 千葉の工場夜景クルーズ】

コース④5月27日（水）日帰り【JAXA/ISAS in 相模原 見学】

コース⑤5月27日（水）日帰り【古秩父湾の誕生から消滅まで】

コース⑥5月30日（土）出発 1泊2日【箱根・富士～日本の代表的観光地の地質学的・火山学的背景～】

コース⑦5月30日（土）出発 2泊3日【古千島島の堆積層と火成岩根室～北海道東部に分布する白亜系～古第三系】

申し込み締め切り

2026年5月7日（木）正午【JAXA/ISAS in 相模原 見学】

2026年5月12日（火）正午 他ツアー

## 一般市民向け公開プログラム 「パブリックセッション」

パブリックセッションが開催されるパブリックデーは5月24日（日）です。パブリックセッションはどなたでも無料でご参加いただけます。内容は一般市民の方を対象としています。

参加方法はP2の「パブリックデーについて」をご参照ください。

\*括弧内は発表者

### O-01 地球・惑星科学トップセミナー

コンピーナ：関根 康人，岡本 敦，後藤 和久，原 辰彦

地球惑星科学分野における最新の成果を招待講演者に紹介していただくアウトリーチセッション。2005年から開催している一般公開プログラムです。日本地球惑星科学連合の広報普及委員がコンピーナーです。

講演内容

O01-01 同位体で読み解く「食べる」の科学：食物連鎖から人類の進化まで（大河内 直彦）

O01-02 海の謎を解き、未来を守る：海洋生態系変動研究の最前線（須賀 利雄）

### O-02 気候変動と再生可能エネルギー利用の課題

コンピーナ：柳澤 教雄，塩竈 秀夫，船山 淳，石峯 康浩，土部 厚志

再生可能エネルギーの利用促進は、気候変動対策の一環として近年進められてきた。例えば、FIT（固定価格買取制度）などの各種法整備もあり、特に太陽光発電については急速に導入が進んできている。

それにもかかわらず、気候変動は加速し、そのことによるエネルギー利用効率への影響が懸念されている。また、再生可能エネルギーの開発に伴い、周辺の自然環境への影響を及ぼす事例も生じてきた。そのため、JpGU 環境災害対応委員会では2025年度から本セッションを開設した。2025年度は太陽光発電を中心に気候変動がおよぼす発電効率への影響の考察を行った。

そして、2026年度の本セッションでは、気候変動対策が市民にとって喫緊の課題であることを踏まえ、市民の関心が高い再生可能エネルギー開発について、気候変動との関連性や、土・応用地質学的な課題、自治体の取り組み事例、世界の動向も紹介することにより、再生可能エネルギー導入の将来像について参加する市民に広く伝えるとともに、ともに考えていく機会としたい。

O02-01 再生可能エネルギーに関する応用地質分野の技術と課題（船山 淳）

O02-02 地方自治体における“再生可能エネルギー熱”研究の取り組み—埼玉県における地中熱・太陽熱評価と実証—（濱元 栄起）

O02-03 暑くなる都市と電力の需給 —都市気候学によるアプローチ—（高根 雄也）

O02-04 気候変動シナリオ下における地中熱ヒートポンプシステムの長期省エネ性能評価（島田 佑太郎）

O02-05 地熱利用の現状と課題（柳澤 教雄）  
（ポスター）

O02-P01 Design tradeoffs in agrivoltaics: Crop-suitable light and energy production in California (Daphne Condon)

O02-P02 Structural Drivers and Institutional Constraints of the Energy Transition in Fossil Rent Dependent West African Economies (Josephine Andrea Niangué)

O02-P03 地中熱利用オープンループシステムの還元井に影響を与える地下水の酸化還元電位・細粒物質・鉄酸化細菌分布：岐阜市の事例（大谷 具幸）

### O-03 予測できる海!? ～国連海洋科学の10年の挑戦～

コンピーナ：藤井 陽介，原田 尚美，角田 智彦，土井 威志，伊藤 大樹，Kotaro Tanaka

「国連海洋科学の10年（UNDOS）」はSDG目標14「海の豊かさを守ろう」の達成を世界各国で加速させるための国際的な取り組みです。UNDOSが掲げる7つの海の目標の一つに「予測できる海」があります。近年の海洋科学の進展により、高波や高潮、赤潮、黒潮大蛇行、エルニーニョ現象、さらには温暖化に伴う海面上昇、CO<sub>2</sub>の吸収、水産資源の変動、海洋プラスチックなどさまざまな海洋現象が予測されるようになりました。しかし、その予測の成果は、まだ社会の中で十分に活用されていません。防災や漁業、気候変動対策など、社会のさまざまな分野で活用できる大きなポテンシャルが残されています。本セッションでは、招待講演を通して、観測やモデル開発、社会実装など、「予測できる海」に関わる様々な活動について紹介します。また、総合討論では、これらの取り組みを社会に生かすために、UNDOSとしてどのような活動を進めていくべきか議論します。

講演内容

O03-01 「もっと予測できる海」に向けて社会の中でより活用される海洋予測への取り組み（田中 裕介）

O03-02 海洋予測データの社会実装（佐川 玄輝）

O03-03 海洋プラスチックデータベースの拡充と将来予測—日本周辺から極域まで—（黒田 真央）

O03-04 パネルディスカッション：国連海洋科学の10年「予測できる海」の推進にむけて（藤井 陽介）

（ポスター）

O03-P01 海洋観測と海洋予測の相互発展：国連海洋科学の10年「予測できる海」に関する国際的取り組み（藤井 陽介）

O03-P02 2021年秋に発生した前例のない道東赤潮（黒田 寛）

O03-P03 第4回地球規模サンゴ白化イベント下における日本列島沿岸での海水温異常と広域的なサンゴ白化（栗原 晴子）

O03-P04 温暖化が進むと魚や海藻はどうなるか？（西川 悠）

O03-P05 生物学、海洋学、気象学の共同研究を促進するデータベース（Biologging intelligent Platform: BiP）（佐藤 克文）

O03-P06 予測できる海—海洋基本計画のもとでの海洋科学技術に関する取組（角田 智彦）

### O-04 ジオパークとサステナビリティ（口頭招待講演）

コンピーナ：松原 典孝，佐野 恭平，土井 恵治

ジオパークでは、46億年の地球の歴史が私たち人の暮らしや社会に影響を与えていることを再認識し、人間社会と私たちが暮らす惑星「地球」をあらゆるレベルで再び結び付け、サステナブル（持続可能）な社会を構築していくことを目指している。人は元来、その地域固有の地形・地質をはじめとする自然条件に適応して生活し、また、その適応するための知恵を代々つないできた。本セッションでは、各地のジオパークを題材に、サステナブル（持続可能）な社会の実現にむけた方策について議論する。

講演内容

- O04-01 十勝岳ジオパークと農業 (富島 千晴)
- O04-02 伊豆半島の地質と気候に結びついたわさび生産とジオパークでの活用 (佐々木 恵子)
- O04-03 土佐清水ジオパークにおける水産業の地質・地形学的背景とそれを活用したジオツアーの実践事例 (富永 紘平)
- O04-04 湧水文化を基盤とした地域振興とジオパークの役割 -Mine 秋吉台ジオパーク別府弁天池の事例 - (岩本 双葉)
- O04-05 五島列島福江島において円畑が紡ぐ地域知と住民主導の持続可能な地域づくり (高場 智博)
- O04-06 伝統食材や食文化を取り巻く多様な景観保全プログラムの連携可能性～徳島県三好地域の GIAHS とジオパークの例～ (殿谷 梓)

**O-05** 地質と文化－神話・伝承・民俗文化の地球科学(地球神話学) コンビナー: 先山 徹, 天野 一男, 川村 教一

例年実施している「地質と文化」セッションを今回は神話、伝承、民俗文化に関する地球科学的検討に焦点を当てたものとする。神話・伝承・民俗文化には地球科学的現象や災害と密接に関わるものがあり、その関係を議論する分野に地球神話学 (geom mythology) がある。それらには神話・伝承がそのまま地球科学的現象を示している場合、過去の地質的現象や当時の自然観がもととなって神話・伝承が生まれる場合などがある。また特定の地形や地質現象に対して後に神話・伝承が当てはめられることもある。一方で神話や伝説を安易に信じることは、疑似科学を生み出すことにもなる。本来心の問題であるそれらを地球科学的に議論することは、地質学的な災害や恵みとともに生きてきた人々の生き様を知ることにつながる。本セッションは各地に残る神話・伝承・民俗文化の地球科学的研究を紹介し、多くの人にその意義を知っていただくことを目的とする。

講演内容

- O05-01 伝承をどうとらえるかー「袂石」と「さざれ石」(先山 徹)
- O05-02 地質学によって神話や伝説を説明する地球神話の活用に向けて (野村 律夫)
- O05-03 古生物学的視点からみた化石伝承 (荻野 慎啓)
- O05-04 地質学者のように読む神話・伝承 -DEEP TIME と SHALLOW TIME をつなぐ物語- (天野 一男)
- (ポスター)
- O05-P01 藁蛇神事ともなう伝承と災害 (先山 徹)
- O05-P02 鬼滅の刃から見る日本各地の「割れ岩」の伝承 (伊藤 剛)
- O05-P03 『古事記』神話の配列と完新世環境変動ー 神話叙述に保存された長期間の認識記録ー (後藤 秀昭)
- O05-P04 アワビ殻をめぐる沿岸環境と文化伝承の融合 (黄 子涵)
- O05-P05 磐梯山の岩なだれに関わる伝承と伝承の地を巡るジオツアー (竹谷 陽二郎)
- O05-P06 糸魚川でのヒスイ発見に至る相馬御風の推理過程ー 地球神話学の具体例ー (竹之内 耕)
- O05-P07 奇跡の山 妙義山を見上げた人々 (関谷 友彦)
- O05-P08 江戸時代の京都の同種の説話に見える地震の発生時刻の違い (服部 健太郎)
- O05-P09 豊岡盆地の成り立ちとアメノヒボコ伝説 (松原 典孝)
- O05-P10 熊野酸性岩類の自然信仰からの熊野神話の成立過程 (此松 昌彦)
- O05-P11 天然記念物の保全と神話ー布田川断層の例ー (柴田 伊廣)
- O05-P12 先島諸島の大波型創世神話と民俗周圏論 (藤本 悠吾)

**O-06** 気候変動をまなぶ・ひろく・つなぐー若者と研究者で語るー

コンビナー: 岩田 真, 高橋 裕, 荒川 知子, 平松 信昭, 山本 隆太  
近年、世界の様々なところで気温の上昇、豪雨の頻発化・激甚化、干ばつなどが報じられています。このような気候変動を実感することが多くなったと思いませんか。これらは多くの分野と関係する、国際社会が直視すべき喫緊の課題です。しかし、そうだとわかってつもの、今の社会を見渡すと、気候変動にまつわる、観測データから極端に逸

脱した言説が飛び交っていたり、個人で行動に移すことに躊躇したりする状況もあるのではないのでしょうか。気候変動は気候や気象の専門家だけで解決できる問題ではありません。将来を担う中学生、高校生、大学生のみなさん、パリ協定が発効されて10年が経つ今こそ、気候変動にどう向き合うべきか語り合いませんか。このセッションでは、気候変動について基本的な知見を共有したのち、気候変動を解決するための様々な学問分野の取組を紹介し、講演のなかで、みなさんの進路選択の一助になるような情報も提示します。みなさんと研究者、学校教員も共に気候変動について考える場としたいと思います。なお、主な対象者としている中学生と高校生には英語での議論に不慣れた生徒が多いと考えられるため、Jセッションとして開催します。

- 講演内容
- O06-01 気候変動を「信じる」から「考える」へ (今田 由紀子)
  - O06-02 気候変動への適応とは？ 私たちの暮らしを守るためにできること (石崎 紀子)
  - O06-03 過去の気候は、未来を語るか？ 歴史気候学から考える気候変動 (財城 真寿美)

**O-07** 環境教育のすすめ：地球の熱収支を考える

コンビナー: 中井 仁, 中西 研二  
本セッションは、SDGsの17の目標の中から、JpGUに関わりの強い課題を選び、噛み砕いた解説を専門家に提供してもらうことを目的としている。2026年度の本セッションは、地球の気象現象を理解する第一歩となる「地球の熱収支」を取り上げる。地球の熱収支は、高等学校の地学や地理の教科書に概念図が紹介されているが、図に記されている数値には、数多くの観測から得られたもの、およびそれらの観測結果から理論的に推論されて求められたものがあり、一般の人が図の意味を正しく理解するには困難が伴う。「地球の熱収支」の概念は、日常の気象現象を理解する上で必要であると同時に、近年の地球の平均気温の変化や、極端気象の頻度の増加といった現象をシミュレーションの手法で明らかにする試みの基礎となるものである。最先端の研究成果についての知識を共有することによって、SDGsの共通理解へとつなげていきたい。本セッションは原則として日本語で開催します。

- 講演内容
- O07-01 地球温暖化による表面熱収支の変化 (河宮 未知生)
  - O07-02 地球温暖化に伴う日本の気候変化の概要と地表面熱収支を介した積雪減少の局地気象への影響 (川瀬 宏明)
  - O07-03 地球大気熱収支と大気の鉛直運動 (佐藤 正樹)

**O-08** 地球が育む食文化～ジオパーク・ガストロノミーと食文化の未来～

コンビナー: 郡山 鈴夏, 榊山 匠, 福村 成哉  
2024年、ユネスコ世界ジオパークの国際的ネットワークである世界ジオパークネットワークに、ジオパークガストロノミーワーキンググループが設立された。世界ジオパークネットワークでは、“食は文化とアイデンティティの不可欠な要素であり、特定の地域の伝統、歴史、価値観を反映している”、“ジオパークの独特な風味と食文化遺産を見せることで、地域コミュニティは文化的アイデンティティを強化し、住民と訪問者の双方に誇りと帰属意識を育むことができる”、“多くのユネスコ世界ジオパークでは、経済活動が農業、畜産、漁業などの第一次産業に依存しており、これらは地域の文化的アイデンティティとも深く結びついている”としている。今後、このワーキンググループの活動の下、ジオパークにおけるガストロノミーに関する議論が国際的に加速していくことが予想される。本セッションでは、日本の食文化に焦点を当て、日本列島の地球科学的特性とそこではぐくまれた食文化との関連性、温暖化などの環境変化がもたらす日本の食文化の未来について議論する。

- 講演内容
- O08-01 なぜジオ・ガストロノミーなのか？ (長谷川 修一)
  - O08-02 「酒の源流」としての南部フォッサマグナ (久田 健一郎)
  - O08-03 北北ジオパークにおける海洋環境の多様性と食文化の持続性

— 三海域の特性がもたらす恵みと地球環境変化への対応 —  
(佐々木 建一)

**O-09** キッチン地球科学：多様な到達点を生む実験

コンビーナ：熊谷 一郎，鈴木 絢子，下川 倫子，栗田 敬  
「キッチン地球科学」は，身の周りにある物や道具を用いたアナログ実験によって，地球惑星科学現象を理解することを目的としています。アナログ実験は，現象を支配する物理を明らかにするという重要な役割を持っていると同時に，自然の持つ不確定要素にも満ちており，ときに予期しない現象が観察されます。それらは，我々に驚きの発見や考える機会を与え，そして新たな問題を提起します。こうした経験は，地球惑星科学の若手研究者のみならず，未曾有の地球環境変化の中で生き抜く我々にとっても重要です。今回は，Abraham Flexner (1939) の“The usefulness of useless knowledge”以来，議論となっている「役に立つ」のかどうかかわからないけれども「知的好奇心」が沸き立つ研究の重要性に焦点をあてたいと思います。幅広い分野の講演者を招待し，手を動かして頭脳を刺激する「キッチン地球科学」について紹介し，皆様と広く意見交換する場を設けたいと思います。なお，パブリックセッションのガイドラインに従い，発表言語を日本語としました。スライドやポスターは可能な限り英語に致します。

講演内容

- O09-01 スコリアから考えるパンの製法 (寅丸 敦志)  
O09-02 今ココからの脱出と超越：東大授業『茶わんの湯』の実践— ゆっくり観察，手・頭・心を動かす教養教育としてのオブジェクト・ベースド学習メソッド— (鹿島 勲)  
O09-03 Cloud Science at Home: From Simple Experiments to Scientific Analysis of Animated Films and TV Dramas (荒木 健太郎) (ポスター)  
O09-P01 コーヒーをドリップしながら考える地盤液化現象 (2) (栗田 敬)  
O09-P02 強制振動により誘起されるクラスタリングとストライプパターン (坂口 英穂)  
O09-P03 Bifurcation phenomena of the Rotating Camphor particle (下川 倫子)  
O09-P04 火星土壌で米は育つか - 大学生との試行錯誤 - (野口 里奈)  
O09-P05 カラフルな温度計で大気環境を測定をする (はしもと じょーじ)  
O09-P06 水あめとポッキー®を用いた変成岩中に形成されるマイクロブーディン構造のモデル実験 (外山 和也)  
O09-P07 2液性発泡ウレタンを用いた火山噴火モデルの開発：媒体密度の制御によるマグマ貫入から成層圏傘雲，カルデラ形成の再現 (千葉 達朗)  
O09-P08 Restitution coefficient measurement of a dense-potato-starch-suspension droplet impacting onto a hard floor (藤本 実聡)  
O09-P09 Does the morphology of meteorite craters change depending on the bedrock topography? Experiments on impact craters using potato starch (春日 佑善)  
O09-P10 重力可変装置を改良して地球重力を超える (久好 圭治)  
O09-P11 泥ターゲットへの衝突でできる地形 (鈴木 絢子)  
O09-P12 Analog experiments on low-velocity impact of a sphere into a mud layer as a mimic of the secondary impact cratering in unconsolidated sediments on Mars (熊谷 一郎)

**O-10** 可視化と表象：地球科学とアートが捉える不可視の世界

コンビーナ：荒木 優希，豊福 高志，長井 裕季子，石田 翔太  
地球内部やダークマター，流体運動，結晶構造など，直接観ることが困難な対象を可視化することで科学は発展を遂げてきた。一方，アートにおいては，知覚や思考を駆使して不可視の事象を表象してきた。科学とアートは，それぞれ可視化と表象という異なるアプローチで不可視な現象に迫ろうとする試みだといえる。これまでの地球科学アートセッションでは，アートの美的表現を活用して科学研究を俯瞰する事例が多数紹介され，新たな視点を得た。今年度は，美の観点にとど

まらず，科学における可視化とアートの表象という二つの方法論を共有し，「不可視の世界をいかに“視る”か」をテーマに，地球科学の研究者とアーティストが意見交換を行う。可視化が求められる対象や，それに対する新たな可視化のアイデアを模索し，その実現を考える過程を通じて，聴衆とともにアート思考そのものの“可視化”を目指す。

- 講演内容  
O10-01 石灰化環境の可視化：環境指標研究から pH イメージングへ (豊福 高志)  
O10-02 鉱物が反応する現場を可視化してみると— 蛍光イメージングで観る結晶成長 (川野 潤)  
O10-03 生きた細胞の接着界面を見てみよう (松崎 賢寿)  
O10-04 地球観測データは音楽芸術のための“天然資源”となりうるか？— 弦楽四重奏第1番《極域エナジーバジェット》の残響 (永井 裕人)  
O10-05 理解のためではない可視化・可聴化 — 世界に在るための表象 (松浦 季恒)

**O-11** 西之島と小笠原諸島の火山たち：ダイナミックな活動を見つめて

コンビーナ：吉田 健太，多田 訓子

関東沖から南へと並ぶ伊豆諸島・小笠原諸島には，2013年から噴火活動を続ける西之島をはじめとして活動的な火山が多く存在します。特に，本州から800km以上離れた小笠原諸島では，近年西之島に加えて硫黄島や福徳岡ノ場など複数の火山の活動が見られています。陸域から遠く離れた絶海の火山島・海底火山の活動は，地球科学だけでなく生物学の面でも独特の現象が観察出来る天然の大実験場であるといえます。海原遠くの離島火山の調査には様々な困難が立ちますが，異分野の研究者が知恵を出し合って研究を進めて居ます。本セッションは，地球科学諸分野，および地球科学の枠組みを超えて様々な分野の研究者がそれぞれの視点で見た西之島や，小笠原諸島の火山活動の現在の姿を共有し，遠く離れた火山の活動を身近に知って貰うことを目的とします。テレビ番組にも取り上げられる西之島や，身近な海岸に漂着する軽石など，小笠原の火山活動は意外な注目ポイントがあります。そういった現象に興味のある一般の方を主たる対象とし，関心のある全ての人の参加を歓迎します。

講演内容

- O11-01 西之島が見せるダイナミックな地質現象を海から探る (吉田 健太)  
O11-02 火山活動の変化は海洋島生態系の初期過程を多様にするか：西之島の噴火と生物相の変化 (森 英章)  
O11-03 西之島における科学観測の変遷と無人航空機 (UAV) の多角的役割 (野口 克也)  
O11-04 海岸に届く伊豆・小笠原諸島の火山活動の痕跡 (平峰 玲緒奈)

**O-12** 高校生ポスター発表

コンビーナ：原 辰彦，紺屋 恵子，鈴木 智恵子，中西 諒

高校生が気象，地震，地球環境，地質，太陽系などの地球惑星科学分野で行った研究活動をポスター形式で発表します。JpGU-AGU Joint Meeting 2026で発表し，地球惑星科学分野の第一線の研究者と議論できる機会を提供します。2006年から開催しているパブリックセッションです。Jセッション(セッション言語は日本語)として提案しますが，英語での発表も受け付けます。

**O-13** International Poster Session for high school students

コンビーナ：小俣 珠乃，木戸 ゆかり，田中 香津生，Diana Lynne Ibarra  
このセッションではどの国からでも中高生の地球科学に関する英語での発表を行います。ポスター発表を通じて各国の生徒や研究者と交流し，意見交換をすることが可能です。ポスター準備から発表までのプロセスを経ることで，発表者が地球科学に関する新たな意義や将来の展望を開くことにつながることを期待します。

## ユ ニオンセッション

ユニオンセッションは、地球惑星科学のフロンティアや地球惑星科学のコミュニティ全体に共通する課題を全研究者に広く周知し、議論するためのセッションです。今年は19件のセッションが開催されます。一部のユニオンセッションは口頭発表のみでポスター発表はありません。

**U-01** Great Debate: International Perspectives on the Future Geosciences-Funding Policies and Research Directions  
コンピーナ：原田 尚美, 小口 高, ウォリス リチャード サイモン, Carol Finn, Kristen Averyt  
口頭発表：5月29日(金) 12:30 ~ 13:30 会場：コンベンションホールA

**U-02** Applied Math Perspectives on Modeling, Analyzing, and Predicting Complex Geophysical Systems  
コンピーナ：Nan Chen, Di Qi, Charlotte Moser  
口頭発表：5月25日(月) AM 1, AM 2 会場：展示場特設会場2  
ポスター発表：5/25

**U-03** 生成 AI 時代の学術出版：透明性・信頼性・倫理の課題  
コンピーナ：小田 啓邦, 後藤 和久, Philippe Courtial, Matthew Giampoala  
口頭発表：5月29日(金) PM 2 会場：展示場特設会場1

**U-04** Advancing Open and FAIR Sciences: strategies, infrastructures, practices, and communities  
コンピーナ：近藤 康久, 村山 泰啓, Cecconi Baptiste, Shelley Stall  
口頭発表：5月26日(火) PM 1, PM 2 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月26日(火)

**U-05** Natural Hydrogen, Understanding its Subsurface System and Production Engineering  
コンピーナ：倉本 真一, 小杉 安由美, 内田 晴久, Qingwang Yuan, Jean-Marc Fleury  
口頭発表：5月29日(金) AM 1 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月29日(金)

**U-06** Satellites, Societies, and Sustainability  
コンピーナ：Usman Muhammad, 阿部 隆博, Abdul Rashid Bin Mohamed Shariff, 高橋 幸弘, Gay Jane Perez, Kevin Lariosa Garas, Decibel Villarisco Faustino-Eslava  
口頭発表：5月28日(木) 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月28日(木)

**U-07** 北西太平洋域における生態系変動とその地球規模環境変動との関連  
コンピーナ：須賀 利雄, Niklas Schneider, 西川 はつみ, 伊藤 大樹, 川上 雄真, 安中 さやか  
口頭発表：5月28日(木) PM 2 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月28日(木)

**U-08** Advances in Legacy and Emerging Contaminant Biogeosciences  
コンピーナ：Michael S Bank, Sae Yun Kwon, Zoyne Pedrero Zayas  
口頭発表：5月25日(月) AM 1 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月25日(月)

**U-09** 都市地盤地質と防災リスクマネジメントの未来  
コンピーナ：北田 奈緒子, 竹下 徹, 伊藤 有加, 王 功輝, 徳永 朋祥  
口頭発表：5月29日(金) PM 1 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月29日(金)

**U-10** New Horizon for Diversity, Equity/Equality and Inclusion in the Geoscience

コンピーナ：堀 利栄, 若狭 幸, ソン ウォンソ, Claudia Jesus-Rydin, Billy M Williams, Carol Finn  
口頭発表：5月24日(日) PM 1 会場：展示場特設会場1

**U-11** 第四紀および人新世の気候変動  
コンピーナ：窪田 薫, 横山 祐典, Li Lo, Chuan-Chou Shen  
口頭発表：5月26日(火) AM 1, AM 2 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月26日(火)

**U-12** Safeguarding Science in a Changing Global Landscape

コンピーナ：Mark Mocettini Shimamoto, Janice Lachance  
口頭発表：5月29日(金) AM 2 会場：展示場特設会場1

**U-13** 科学と社会の再構想：地球惑星科学から問う新たなカタチ  
コンピーナ：島村 道代, ソン ウォンソ, 大西 有子, KANG KIWON, Mark Mocettini Shimamoto

口頭発表：5月24日(日) AM 1 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月24日(日)

**U-14** Geoscience across research and education: National priorities and international collaborations

コンピーナ：Vincent Tong, 早川 裕式, 小口 千明, 島村 道代, Ting Wang  
口頭発表：5月27日(水) AM 2 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月27日(水)

**U-15** 多様な自然災害関連情報の利活用：被害軽減に向けた統合・展開

コンピーナ：吾妻 崇, 下村 博之, 北田 奈緒子, 千田 敬二, 菊地 輝行, 小侯 雅志, 田村 和夫, 松四 雄騎, 宇根 寛, Harkunti Pertiwi Rahayu  
口頭発表：5月28日(木) AM 1 会場：展示場特設会場2  
ポスター発表：5月28日(木)

**U-16** 地球科学・地球環境の諸問題と地球衛星観測

コンピーナ：江口 菜穂, 高数 縁, 早坂 忠裕, 高橋 暢宏, 金谷 有剛, 古屋 正人  
口頭発表：5月25日(月) AM 2 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月25日(月)

**U-17** CO<sub>2</sub> 環境の生命惑星化学

コンピーナ：上野 雄一郎, 鈴木 志野, 尾崎 和海, 北台 紀夫  
口頭発表：5月25日(月) PM 1, PM 2 会場：展示場特設会場1  
ポスター発表：5月25日(月)

**U-18** 人工知能が拓く地球惑星科学の将来

コンピーナ：長尾 大道, 高橋 幸弘, 飯田 佑輔, 中野 満寿男  
口頭発表：5月24日(日) AM 2 会場：展示場特設会場1

**U-19** 地球惑星科学の進むべき道13：新ロードマップ - さらなる飛躍へ

コンピーナ：倉本 圭, 中村 卓司, 佐竹 健治, ウォリス リチャード サイモン  
口頭発表：5月27日(水) PM 2 会場：展示場特設会場1

## セ クション企画セッション

昨年度大会より始動した、JpGUの5セッションが主催するセッションです。今大会では、下記2件のセッション企画セッションが開催されます。所属セッションに関係なく、どなたでもご参加いただけます。

**L-01** 宇宙惑星科学セクションレクチャー

コンピーナ: 中本 泰史, 三好 由純, 大竹 真紀子  
 口頭発表: 5月24日(日) AM2 コンベンションホールB

**L-02** 大気水圏科学の最前線3「近年の世界と日本の極端高温」

コンピーナ: 大手 信人, 佐藤 薫, 野中 正見  
 口頭発表: 5月27日(水) AM2 国際会議室

**八** ハイライトセッション

JpGUで行われる全発表の中からセクションと広報普及委員会が選出した注目セッションがハイライトセッションです。ハイライトセッションに選ばれたセッションのコンピーナには、更に特に注目していただきたいハイライト論文の選出を依頼しております。ハイライト論文は決まり次第、大会ウェブページやSNSなどでご紹介してまいります。

**ユニオンセッション**

U-07 北西太平洋域における生態系変動とその地球規模環境変動との関連

**パブリックセッション**

O-04 (G-07) ジオパークとサステナビリティ  
 O-11 西之島と小笠原諸島の火山たち: ダイナミックな活動を見つめて

**セクション企画**

L-02 大気水圏科学の最前線3「近年の世界と日本の極端高温」

**宇宙惑星科学**

P-PS11 Mercury Science and Exploration  
 P-EM15 Frontiers in solar physics: observation, modeling, and long-term research from the past to the future

**大気水圏科学**

A-CG58 Multi-scale ocean-atmosphere interaction in the tropics  
 A-CG63 変わりゆく中緯度大気・海洋・生態系: 素過程・結合・将来展望  
 A-CG68 北極域の科学

**地球人間圏科学**

H-SC07 地球温暖化防止と地学 (CO<sub>2</sub> 地中貯留・有効利用, 地球工学)  
 H-RE12 海底鉱物資源とその陸上アナログ  
 H-CG19 気候変動への適応とその社会実装

**地球生命科学**

B-PT03 バイオミネラルゼーションと古環境プロキシ  
 B-CG06 微化石生物学の最前線

**領域外・複合領域**

M-IS04 Paleoclimatology and paleoceanography  
 M-IS07 プラスチックごみ問題への学際的挑戦: 地球科学と政策の視点から  
 M-GI36 計算科学が拓く宇宙惑星地球科学

**各** 種展示

内容: 大学・研究所・研究団体・企業・出版社・政府機関などによる、最新プロジェクト等の公開・研究発表・情報交換・交流の場です。各展示ブースでの展示を行います。ぜひお立ち寄りください。

**企画1. スタンプラリー**

ブースをまわってスタンプを集めると、景品がもらえます。各種展示を楽しんだうえにお土産も手に入れるチャンス!

**企画2. 出展者セミナー**

出展者による特別セミナーが開催されます。最新の地球惑星科学情報をチェック! 詳しくはホームページをご覧ください。  
[https://www.jpгу.org/meeting\\_j2026/exhibition/](https://www.jpгу.org/meeting_j2026/exhibition/)

出展者一覧(4月15日時点 最新情報はホームページをご覧ください):

**▼企業**

株式会社セントラル科学貿易 / NV5 Geospatial 株式会社 / 地震計の勝島製作所 / レザック / 光ファイバセンシング / セイコーエプソン株式会社 / 石油資源開発株式会社 / 株式会社地球科学総合研究所 / Finapp S.p.A. / ソフトバンク株式会社 / ALES 株式会社 / ソフトバンク独自基準点データの宇宙地球科学用途利活用コンソーシアム / アジア航測株式会社 / 株式会社ジオシス / 応用地質株式会社 / メイジテクノ株式会社 / 岡本硝子株式会社 / 東京測振・Nanometrics / 株式会社マリン・ワーク・ジャパン / SGS Beta / 白山工業株式会社 / 株式会社パレオ・ラボ / 安井器械株式会社 / 独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) / 株式会社 INPEX / 株式会社ニューテック / 株式会社 JDRONE / Geoscience Enterprise (GSE) / 株式会社フィールドプロ / 三洋貿易 / Picarro / メイワフォーシス株式会社 / イネーブラー株式会社 / カノマックスアナリティカル株式会社 /

**▼出版社、書籍販売**

Overleaf / Writefull / 朝倉書店 / MDPI / Springer Nature / 株式会社ニュートリノ東京 / 共立出版株式会社 / 一般財団法人 東京大学出版会 / 株式会社 古今書院 / Taylor & Francis /

**▼グッズ販売**

アールシーギア / 総理舎 / 自然科学モチーフのアクセサリ 包み屋 kurumiya / ジオガン旅行団 / 加速キッチン / イケガミ・ジオリサーチ / 株式会社ニチカ /

**▼大学、大学院、研究所**

京都大学地球惑星科学連合 / 立命館大学 宇宙地球フロンティア研究科 (設置構想中) / Center for Advanced Model Research Development and Application, National Central University, Taiwan / 東京科学大学 地球生命研究所 (ELSI) / 東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻 / 愛媛大学 先端研究院 地球深部ダイナミクス研究センター / 東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラム / 広島大学 地球惑星システム学科 / プログラム / 統計数理研究所 データ同化研究センター / 名古屋大学大学院 環境学研究科 地球環境科学専攻 / 会津大学 宇宙情報科学研究センター / 東京大学地震研究所 / 大阪大学 大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻 / 北海道大学低温科学研究所 / 東北大学 地球物理学専攻・地学専攻 / 東北大学 環境・地球科学国際共同大学院プログラム / 東京大学大気海洋研究所 / 北海道大学理学部地球惑星科学科 / 千葉工業大学 惑星探査研究センター / 東京都立大学 都市環境科学研究科 地理環境学域 / 東北大学・海洋研究開発機構 変動海洋エコシステム高等研究所 (WPI-AIMEC) / 岡山大学惑星物質研究所 /

**▼研究機関**

国立天文台アルマプロジェクト / TMT プロジェクト / 国立環境研究所 衛星観測センター / 産業技術総合研究所 地質調査総合センター / 地球掘削科学 JAMSTEC/J-DESC/Kochi Univ. / International Continental Scientific Drilling Program (ICDP) / JAMSTEC 地震火山研究部門 / 総合地球環境学研究所 (地球研) / JAXA 地球観測研究センター / 地球掘削科学 JAMSTEC/J-DESC/Kochi Univ / 地球掘削科学 JAMSTEC/J-DESC/Kochi Univ / 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 / 山梨県・富士山科学研究所 / 公益財団法人 高輝度光科学研究センター /

**▼学会、学術団体**

日本海洋学会 / 日本地形学連合 / 公益社団法人 物理探査学会 / 日本地球化学会 / 地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS) / 日本火山学会 / 日本鉱物科学会 / (社) 日本地質学会 / 日本測地学会 / 日本古生物学会 / 日本リモートセンシング学会 / The Geological Society of London / IUGG National Committee of the Republic of Korea / Japan Geoscience Union / American Geophysical Union / PEPS&AGU Journals / European Geosciences Union / Asia Oceania Geosciences Society / TCGU / Open Science & Help Desk / Earth, Planets and Space

▼プロジェクト

グローバル南極学／北極域研究強化プロジェクト (ArCS III)／みんなで翻刻／

▼行政, その他

原子力規制庁 地震・津波研究部門／気象庁・気象研究所・地磁気観測所・気象大学校／原子力発電環境整備機構 (NUMO)／

開催セッション一覧

- ◎／口頭発表開催日
- Ⓟ／ポスター発表開催日

ユニオン (U)

- U-01 [E] Great Debate: Future Geosciences (◎29)
- U-02 [E] Applied Math Perspectives on Geophysics (◎25, ◎25)
- U-03 [E] 生成 AI 時代の学術出版 (◎29)
- U-04 [E] Open & FAIR Science (◎26, ◎26)
- U-05 [E] Natural Hydrogen (◎29, ◎29)
- U-06 [E] Satellites, Societies, and Sustainability (◎28, ◎28)
- U-07 [E] 北西太平洋の生態系変動 (◎28, ◎28)
- U-08 [E] Legacy and Emerging Contaminants (◎25, ◎25)
- U-09 [E] 都市地盤地質 (◎29, ◎29)
- U-10 [E] New Horizon for DEEI/EDI (◎24)
- U-11 [E] 第四紀・人新世の気候変動 (◎26, ◎26)
- U-12 [E] Safeguarding Science in Transition (◎29)
- U-13 [E] 科学と社会の再構想 (◎24, ◎24)
- U-14 [E] Geoscience across research and education (◎27, ◎27)
- U-15 [E] 自然災害関連情報の利活用 (◎28, ◎28)
- U-16 [J] 地球環境諸問題と衛星観測 (◎25, ◎25)
- U-17 [J] CO<sub>2</sub> 環境の生命惑星化学 (◎25, ◎25)
- U-18 [J] AI 地球惑星科学 (◎24)
- U-19 [J] 地球惑星科学ロードマップ (◎27)

パブリック (O)

- O-01 [J] トップセミナー (◎24)
- O-02 [J] 気候変動と再エネ (◎24, ◎24)
- O-03 [J] 予測できる海!? (◎24, ◎24)
- O-04 [J] 日本のジオパーク (◎24)
- O-05 [J] 地質と文化 (◎24, ◎24)
- O-06 [J] 気候変動を研究者と語ろう (◎24)
- O-07 [J] 環境教育のすすめ (◎24)
- O-08 [J] 地球が育む食文化 (◎24)
- O-09 [J] キッチン地球科学 (◎24, ◎24)
- O-10 [J] 地球科学アート (◎24, ◎24)
- O-11 [J] 西之島の小笠原の火山 (◎24)
- O-12 [J] 高校生ポスター発表
- O-13 [E] International Poster Session for high school students

セクション企画 (L)

- L-01 [E] 宇宙惑星科学レクチャー (◎24)
- L-02 [E] 近年の極端高温 (◎27)

宇宙惑星科学 (P)

天文学・太陽系外天体 (AE)

- P-AE22 [E] 系外惑星 (◎28, ◎28)

惑星科学 (PS)

- P-PS01 [E] Outer Solar System Exploration (◎26, ◎26)
- P-PS02 [E] Lunar Science and Exploration (◎28, ◎28)
- P-PS03 [E] New perspectives on Small Solar System Bodies (◎27, ◎27)
- P-PS04 [E] 惑星科学 (◎25, ◎25)
- P-PS05 [E] Regolith Science (◎27, ◎27)
- P-PS06 [E] Planetary interiors (◎24, ◎24)
- P-PS07 [E] 火星と火星衛星 (◎26, ◎26)
- P-PS08 [E] Science of Venus (◎29, ◎29)
- P-PS09 [E] Planetary Defense Missions and Research (◎29, ◎29)
- P-PS10 [E] Evaporites as Clues into Habitability (◎26)
- P-PS11 [E] Mercury Science and Exploration (◎25, ◎25)
- P-PS12 [J] 太陽系物質進化 (◎28, ◎28)

太陽地球系科学・宇宙電磁気学・宇宙環境 (EM)

- P-EM13 [E] Space Weather and Space Climate (◎26, ◎26)
  - P-EM14 [E] 太陽圏 (◎25, ◎25)
  - P-EM15 [E] Frontiers in solar physics (◎28, ◎28)
  - P-EM16 [E] Atmosphere-Ionosphere Coupling (◎24, ◎25, ◎25)
  - P-EM17 [E] 宇宙プラズマ科学 (◎26, ◎26)
  - P-EM18 [E] Dynamics of Magnetosphere and Ionosphere (◎28, ◎28)
  - P-EM19 [E] Inner Magnetospheric System (◎29, ◎29)
  - P-EM20 [E] 太陽地球系結合過程 (◎27, ◎27)
  - P-EM21 [E] 惑星大気圏・電磁圏 (◎25, ◎25)
- 宇宙惑星科学複合領域・一般 (CG)
- P-CG23 [E] 惑星地震学 (◎24, ◎24)
  - P-CG24 [E] 将来探査計画と機器開発 (◎26日, ◎27, ◎27)
  - P-CG25 [E] 宇宙物質 (◎29, ◎29)

大気水圏科学 (A)

大気科学・気象学・大気環境 (AS)

- A-AS01 [E] 高性能計算が拓く大気科学 (◎26, ◎26)
- A-AS02 [E] 鉛直運動地球環境学 (◎24)
- A-AS03 [E] Extreme Events and Mesoscale Processes (◎28, ◎28)
- A-AS04 [E] 台風 (◎27, ◎27)
- A-AS05 [E] EarthCARE 科学 (◎27, ◎27)
- A-AS06 [E] 大気 (成層) 圏過程と気候 (◎27, ◎27)
- A-AS07 [E] Aerosols, Clouds, Precipitation, Lightning (◎25, ◎25)
- A-AS08 [E] 大気化学 (◎28, ◎29, ◎29)
- A-AS09 [E] Moisture and Clouds (◎26, ◎26)
- A-AS10 [E] Recent Advances on Radar Meteorology (◎25, ◎25)

- A-AS11 [E] 気象の制御可能性 (◎29, ◎29)
  - A-AS12 [E] GPEX (◎25)
  - A-AS13 [E] Cyclone Genesis and Intensification (◎27)
  - A-AS14 [J] 応用気象学 (◎24, ◎24)
  - A-AS15 [J] 気象学一般 (◎29, ◎29)
- 海洋科学・海洋環境 (OS)
- A-OS16 [E] TC-ocean interactions (◎28)
  - A-OS17 [E] Sea level rise under global warming (◎29, ◎29)
  - A-OS18 [E] 陸域海洋総合作用 (◎24, ◎24)
  - A-OS19 [E] Ocean Biogeochemistry and Ecosystem (◎27, ◎27)
  - A-OS20 [E] Open ocean biogeochemistry and ecology (◎28, ◎28)
  - A-OS21 [E] Indian Ocean variability (◎25, ◎25)
  - A-OS22 [E] Global ocean observation: OneArgo (◎29, ◎29)
  - A-OS23 [E] Waves, Storm Surges, and Coastal Hazards (◎25, ◎25)
  - A-OS24 [J] 海洋微生物 (◎28, ◎28)
  - A-OS25 [J] 海洋学一般 (◎25, ◎25)
  - A-OS26 [J] 水圏生態系: 循環と機能 (◎26, ◎26)
  - A-OS27 [J] 沿岸海洋 (◎25, ◎25)
- 水文・陸水・地下水学・水環境 (HW)
- A-HW28 [E] Tracer Hydrology (◎27, ◎27)
  - A-HW29 [E] 都市域の水環境と地質 (◎26, ◎26)
  - A-HW30 [E] 水循環・水環境 (◎27, ◎27)
  - A-HW31 [E] Surface Water-Groundwater (◎25, ◎25)
  - A-HW32 [E] Groundwater Resources Conservation (◎25, ◎25)
  - A-HW33 [E] Extreme Water Management Resilience (◎24, ◎24)
  - A-HW34 [E] 同位体水文学2026 (◎29, ◎29)
  - A-HW35 [E] Urban Flood Resilience via NbS (◎24)
  - A-HW36 [E] 流域圏における物質輸送 (◎28, ◎28)
  - A-HW37 [E] Frontiers in Drought Science (◎27, ◎27)
  - A-HW38 [E] Global Flooding Trends and Drivers (◎27, ◎27)
  - A-HW39 [E] Atmospheric Water Cycle Change (◎25)
  - A-HW40 [E] Groundwater Resources Management (◎24, ◎24)
- 雪氷学・寒冷環境 (CC)
- A-CC41 [E] The Changing (sub)Arctic Ocean (◎28)
  - A-CC42 [E] Permafrost in transition (◎26, ◎26)
  - A-CC43 [E] アイスコアと古環境モデル (◎27, ◎27)
  - A-CC44 [E] Subglacial environments and processes (◎29, ◎29)
  - A-CC45 [J] 雪氷学 (◎27, ◎27)
- 地質環境・土壌環境 (GE)
- A-GE46 [E] 物質移行及び環境評価 (◎25, ◎25)

A-GE47[E] Soil-Water-Energy Nexus  
(©25, ©25)

**計測技術・研究手法 (TT)**

A-TT49[E] Machine learning for climate  
(©27, ©27)

A-TT50[E] Soil Water Monitoring(©25, ©25)

**大気海洋・環境科学複合領域・一般 (CG)**

A-CG51[E] Dynamics connecting land and oceans [En] (©26, ©26)

A-CG52[E] 静止衛星による陸面観測  
(©27, ©27)

A-CG53[E] Climate Variability and Predictability (©24, ©24)

A-CG54[E] 陸域生態系の物質循環  
(©26, ©26)

A-CG55[E] Lake, Sediment, Rock Continuum Processes (©24)

A-CG56[E] Linking Air Pollutants and GHG Emissions (©25)

A-CG57[E] 海洋と大気力学 (©25, ©25)

A-CG58[E] Tropical ocean-atmosphere interaction (©24, ©24)

A-CG59[E] AMSR シリーズ観測成果  
(©26, ©26)

A-CG60[E] 航空機観測 (©29, ©29)

A-CG61[E] 炭素循環の観測と解析  
(©26, ©26)

A-CG62[E] 中緯度大気・海洋・生態系  
(©26, ©26)

A-CG63[E] 衛星による地球環境観測  
(©28, ©28)

A-CG64[E] 地球規模環境変化 (©29, ©29)

A-CG65[E] HPC in volcanic products dispersal  
(©25, ©25)

A-CG66 [J] 陸から沿岸の水・土砂動態  
(©26, ©26)

A-CG67 [J] 海洋—大気間生物地球化学  
(©28, ©28)

A-CG68 [J] 北極域の科学 (©26, ©26)

**地球人間圏科学 (H)**

**地理学 (GG)**

H-GG01[E] Dialogues on resources and environment (©29, ©29)

H-GG02[E] 風景評価とレク研究(©25)

H-GG03[E] RRG (©25, ©25)

**地形学 (GM)**

H-GM04[E] Geomorphology (©25, ©25)

**第四紀学 (QR)**

H-QR05[E] 第四紀 (©24, ©24)

H-QR06[E] ルミネッセンスと ESR  
(©26, ©26)

**社会地球科学・社会都市システム (SC)**

H-SC07[E] 地球温暖化防止 CCUS  
(©26, ©26)

**防災地球科学 (DS)**

H-DS08[E] 地すべり (©29, ©29)

H-DS09 [E] 気候変動に対応する風工学  
(©24, ©24)

H-DS10[E] Disaster Risk Management and Finance (©28, ©28)

H-DS11 [J] 防災リテラシー (©28, ©28)

**応用地質学・資源エネルギー利用 (RE)**

H-RE12[E] 海底資源と陸上アナログ  
(©28, ©28)

H-RE13[E] 変動帯の応用地質 (©24, ©24)

**計測技術・研究手法 (TT)**

H-TT14[E] 高精細地形地理情報連結性  
(©25, ©25)

H-TT15[E] GIS and Cartography (©27, ©27)

H-TT16[E] 環境トレーサビリティ  
(©26, ©26)

**地球人間圏科学複合領域・一般 (CG)**

H-CG17[E] Tsunami science (©29, ©29)

H-CG18[E] 文化水文学 (©25, ©25)

H-CG19[E] 気候変動適応と社会実装  
(©24, ©24)

H-CG20[E] Submerged landscape  
(©24, ©24)

H-CG21[E] Tropical mountains, islands, and forests (©27, ©27)

H-CG22[E] Human Geoscience for Peace and SusDev (©28)

H-CG23[E] 核実験検知の地球科学  
(©27, ©27)

H-CG24 [J] 原子力と地球惑星科学 (©26, ©26)

H-CG25 [J] 堆積・侵食・地形発達 (©27, ©27)

H-CG26 [J] 閉鎖生態系と生物システム  
(©24, ©24)

**固体地球科学 (S)**

**測地学 (GD)**

S-GD01[E] 測地学・GGOS (©28, ©28)

S-GD02[E] 地殻変動 (©24, ©24)

S-GD03[E] Advances in Geodetic Monitoring  
(©27, ©27)

**地震学 (SS)**

S-SS04[E] 地震活動 (©26, ©26)

S-SS05[E] 地震学一般 I (©25, ©25)

S-SS06[E] Seismological advances in the ocean  
(©24, ©24)

S-SS07[E] Seismicity: new research trends  
(©27, ©27)

S-SS08[E] Environmental Seismology (©27)

S-SS09[E] Understanding the 2011 Tohoku Earthquake (©28, ©28)

S-SS10[E] 活断層と古地震 (©29, ©29)

S-SS11[E] Environmental Seismology  
(©26, ©26)

S-SS12 [J] 地震物理・断層レオロジー  
(©24, 25, ©25)

S-SS13 [J] 地殻構造 (©25, ©25)

S-SS14 [J] 地震学における波動現象  
(©26, ©26)

S-SS15 [J] 地震学一般 II (©29)

S-SS16 [J] 強震動・地震災害 (©27, 28, ©27)

**固体地球電磁気学 (EM)**

S-EM17[E] Geomagnetism and Paleomagnetism (©28, 29, ©28)

S-EM18[E] EM survey technologies & achievements (©24, ©24)

**地球内部科学・地球惑星テクトニクス (IT)**

S-IT19[E] Melts, fluids, and volatiles in Earth  
(©24, ©24)

S-IT20[E] Deep Earth-surface coupling  
(©25, ©25)

S-IT21[E] 惑星中心核 (©26, ©26)

S-IT22[E] Integrated Deep Earth-Material Sciences (©27, ©27)

**地質学 (GL)**

S-GL23[E] Convergent Tectonics (©24)

S-GL24[E] Crustal evolution in collision zones (©29)

S-GL25[E] K-Pg Dynamics of the Circum-Pacific (©29, ©29)

S-GL26[E] East Asia and Panthalassa Tectonics (©24, ©24)

S-GL27 [J] Tectonic history of e-Asia and Japan (©26, ©26)

**資源・鉱床・資源探査 (RD)**

S-RD28[E] Unconventional and Sustainable Resources (©24, ©24)

S-RD29[E] Sensing technology for geological survey (©25, ©25)

**岩石学・鉱物学 (MP)**

S-MP30[E] Supercontinents and Crustal Evolution (©29, ©29)

S-MP31[E] Deformation, metamorphism, and tectonics (©25, ©25)

S-MP32[E] Oceanic & Cont. Subduc. Processes (©26, ©26)

S-MP33[E] Granites: Petrochronology and Processes (©27, ©27)

S-MP34 [J] 鉱物の物理化学 (©28, ©28)

**火山学 (VC)**

S-VC35 [E] マグマ—熱水系理解 (©27, ©27)

S-VC36 [E] Long-term volcanic/igneous activities (©24, ©24)

S-VC37 [E] Volcanic unrest and major eruptions (©27, ©27)

S-VC38 [E] 火山災害 (©28, ©28)

S-VC39 [E] Submarine volcanism  
(©25, ©25)

S-VC40 [E] Eruption dynamics and controls  
(©27, ©27)

S-VC41 [E] Magmatic processes and histories  
(©28, ©28)

S-VC42 [J] 火山の熱水系 (©29, ©29)

S-VC43 [J] 活動的火山 (©26, ©26)

S-VC44 [J] 火山防災 (©29, ©29)

**固体地球化学 (GC)**

S-GC45 [E] Volatiles in the Earth (©25, ©25)

S-GC46 [E] 固体地惑化 (©28, ©28)

**計測技術・研究手法 (TT)**

S-TT47 [E] Airborne surveys (©27, ©27)

S-TT48 [E] Fiber Optic Sensing in Geosciences (©28日, 29, ©28)

S-TT49 [E] SAR とその応用 (©29, ©29)

S-TT50 [E] 稠密多点 GNSS (©29, ©29)

S-TT51 [E] ベイズ地震データ解析  
(©28, ©28)

**固体地球科学複合領域・一般 (CG)**

- S-CG52 [E] 地殻流体と地殻変動 (P27)
- S-CG53 [E] 海底ジオハザード (P27)
- S-CG54 [E] Bridging Pore to Reservoir Scale Physics (P27, P27)
- S-CG55 [E] Subduction inputs/subduction initiation (P28, P28)
- S-CG56 [E] Science of Slow and Fast Earthquakes (P25, P26, P27, P27)
- S-CG57 [E] 岩石-流体相互作用 (P28, P28)
- S-CG58 [E] 地熱地球物理学 (P26, P26)
- S-CG59 [E] Geochronology & Isotope (P25, P25)
- S-CG60 [E] ハードロック掘削 (P27, P27)
- S-CG61 [E] Shallow Landslides and Slope Mitigation (P25, P25)
- S-CG62 [E] 地震動・地殻変動即時解析 (P26, P26)
- S-CG63 [E] Stress and Strengthening in Megathrust (P25, P25)
- S-CG64 [E] Seismic and secondary hazard/risk (P25, P25)
- S-CG65 [E] 変動帯ダイナミクス (P29, P29)
- S-CG66 [E] ハイブリッド年代学 (P26, P26)
- S-CG68 [J] 岩石・鉱物・資源 (P26, P26)
- S-CG69 [J] レオロジーと破壊・摩擦 (P24, P24)
- S-CG70 [J] 海洋底地球科学 (P28, P29, P29)
- S-CG71 [J] 機械学習@固体地球科学 (P27, P27)

**地球生命科学 (B)**

**地球生命科学・地圏生物圏相互作用 (BG)**

- B-BG01 [J] 岩石生命相互作用 (P28, P28)
- 古生物学・古生態学 (PT)**
- B-PT02 [E] Biotic History (P24, P24)
- B-PT03 [E] 生体鉱化作用環境プロキシ (P27, P27)

**地球生命科学複合領域・一般 (CG)**

- B-CG04 [E] 全地球型惑星史解説 (P29, P29)
- B-CG05 [E] Methane: from microbes to the atmosphere (P28, P28)
- B-CG06 [E] 微化石生物学の最前線 (P27, P27)

**教育・アウトリーチ (G)**

- G-01 [E] Citizen and Community Science (P24, P24)
- G-02 [J] 地球惑星科学アウトリーチ (P24, P24)
- G-03 [J] 科学・教育と情報デザイン (P24, P24)
- G-04 [J] 防災教育 (P24, P24)
- G-05 [J] 小・中・高・大学の教育 (P24, P24)
- G-06 [J] 課題解決型教育と地球科学 (P24, P24)
- G-07 [J] 日本のジオパーク (P24)

**領域外・複数領域 (M)**

**ジョイント (IS)**

- M-IS01 [E] グローバル南極学 (P28, P28)
- M-IS02 [E] CHANGES IN NORTHERN EURASIA (P25, P25)
- M-IS03 [E] 粒子重力流 (P28, P28)
- M-IS04 [E] Paleoclimatology and paleoceanography (P25, P26, P26)
- M-IS05 [E] 風化 (P28, P28)
- M-IS06 [E] 地球流体力学 (P25, P25)
- M-IS07 [E] 学際的ブラ組み研究 (P24, P24)
- M-IS08 [E] ダスト (P28, P28)
- M-IS09 [E] アストロバイオロジー (P29, P29)
- M-IS10 [E] 生物地球化学 (P26, P26)
- M-IS11 [E] Extreme Weather in Asia (P27, P27)
- M-IS12 [E] 惑星火山学 (P24, P24)
- M-IS13 [E] Urban climate processes across scales (P29, P29)
- M-IS14 [E] Pre-earthquake processes (P26, P26)
- M-IS15 [E] Wildfire (P27, P27)
- M-IS16 [E] Cenozoic Monsoon and Indo-Pacific climate (P26, P26)
- M-IS17 [E] Geoscience challenges Central Asia (P25, P25)
- M-IS18 [E] Multi-(hazard) risk assessments (P29, P29)
- M-IS19 [J] 結晶成長・溶解 (P24, P24)
- M-IS20 [J] ジオパーク (P25, P25)
- M-IS21 [J] 南大洋・南極 (P29, P29)
- M-IS22 [J] 地質学のみま (P28, P28)
- M-IS23 [J] 歴史学 × 地球惑星科学 (P27, P27)
- M-IS24 [J] 山の科学 (P24, P24)
- M-IS25 [J] 非破壊測定 (P24, P24)
- M-IS26 [J] 大気電気学 (P26, P26)
- M-IS27 [J] 海底のメタンと地球環境 (P27, P27)

**地球科学一般・情報地球科学 (GI)**

- M-GI28 [E] Data assimilation (P25, P25)
- M-GI29 [E] Pacific environment, climate and hazards (P28, P28)
- M-GI30 [E] Extreme environment and volcanic hazard (P27)
- M-GI31 [E] Study to advance earthquake preparedness (P29)
- M-GI32 [E] Cretaceous Dynamics and Climate in Asia (P24, P24)
- M-GI33 [E] 法地質学 (P24, P24)
- M-GI34 [E] Data driven study in weather prediction (P25, P25)
- M-GI35 [E] 炭酸塩生物学 (P24, P24)
- M-GI36 [E] 計算宇宙惑星地球 (P29, P29)
- M-GI37 [E] 地球掘削科学 (P26, P26)
- M-GI38 [E] 情報地球惑星科学 (P29, P29)
- M-GI39 [J] データ駆動地球惑星科学 (P28, P28)

**応用地球科学 (AG)**

- M-AG40 [E] Renewable Energy (P28, P28)
- M-AG42 [J] 環境放射能動態 (P29, P29)

**宇宙開発・地球観測 (SD)**

- M-SD43 [E] SAR missions cooperation (P29)
- M-SD44 [J] 将来の衛星地球観測 (P29, P29)

**計測技術・研究手法 (TT)**

- M-TT45 [E] AI in Earth and Environmental sciences (P24, P24)
- M-TT46 [E] マルチセンシング (P27)
- M-TT48 [J] 低周波が繋ぐ多圏融合物理 (P26, P26)

**その他 (ZZ)**

- M-ZZ49 [E] 地球化学の最前線 (P24, P24)
- M-ZZ50 [E] Ocean Minerals in the Global South (P28)
- M-ZZ51 [J] 地球惑星科学の科学論 (P24, P24)
- M-ZZ52 [J] 海底マンガングル床 (P26, P26)

**朝倉書店**

**JpGU-AGU**

**Joint Meeting 2026**

**学会員様限定 特別書籍販売あり!**

▶ こちらの URL よりお申し込みください。

<https://asakura-jpgu2026.square.site/>





**朝倉書店**

〒162-8707 東京都新宿区新小川町 6-29  
 電話 営業部 (03) 3260-7631 FAX (03) 3260-0180  
<http://www.asakura.co.jp> [eiyo@asakura.co.jp](mailto:eiyo@asakura.co.jp)

(ISBN: 978-4-254 を省略)

# プログラム一覧

## JpGU-AGU 2026 コマ割1 [5月24日▶25日]

会場	5月24日(日)					
	AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3
特設会場 (1)	U-13 [E] 科学と社会の再構想：地球惑星科学から問う新たなカタチ	U-18 [J] 人工知能が拓く地球惑星科学の将来		U-10 [E] New Horizon for Diversity, Equity/Equality and Inclusion in the Geoscience		【現地ポスター】 U-10
特設会場 (2)	H-DS09 [E] 気候変動に対応する風工学			H-QR05 [E] 第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス		U-13 O-02 O-03
特設会場 (3)	H-CG19 [E] 気候変動への適応とその社会実装			H-RE13 [E] 変動帯の応用地質	H-CG20 [E] Exploring the submerged landscape and human past	O-05 O-09
特設会場 (4)	M-ZZ51 [J] 地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論			H-CG26 [J] 圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用	B-PT02 [E] Biotic History	O-10 P-PS06 P-CG23
特設会場 (5)	M-GI35 [E] 炭酸塩生物学：生物起源炭酸塩の地球炭素循環における役割	M-GI32 [E] Cretaceous Earth Dynamics and Climate in Asia: Insights from IGCP Project 679				A-AS02 A-AS14
特設会場 (6)	S-SS06 [E] Seismological advances in the ocean			S-GD02 [E] 地殻変動		A-OS18 A-HW33 A-HW35
特設会場 (7)	M-IS25 [J] 非破壊測定による環境復元の展開			▶S-SS12 [J] 地震発生の物理・断層のレオロジー		A-HW40 A-GE48
特設会場 (8)	S-IT19 [E] Role of melts, fluids, and volatile-bearing minerals in Earth and planetary dynamics			M-TT45 [E] Artificial Intelligence in Earth and Environmental sciences		A-CG53 A-CG55 A-CG58
101	A-OS18 [E] 陸域海洋相互作用-惑星スケールの物質輸送			G-04 [J] 総合的防災教育		H-QR05 H-DS09
102		A-HW33 [E] Sustainable Resilience under Extreme Scenarios: Strategies and Technologies for Water Management		M-IS07 [E] プラスチックごみ問題への学際的挑戦：地球科学と政策の視点から		H-RE13 H-CG19 H-CG20
103	M-IS12 [E] 惑星火山学	A-AS14 [J] 応用気象学		M-IS24 [J] 山の科学		H-CG26 B-PT02
104	A-CG58 [E] Multi-scale ocean-atmosphere interaction in the tropics			A-CG53 [E] Climate Variability and Predictability on Subseasonal to Centennial Timescales		S-GD02 S-SS06 S-EM18
105	A-HW40 [E] Groundwater Resources Management: Monitoring, Modeling, Decision-Support, and Stakeholder Engagement					S-IT19 S-GL23
106	O-07 [J] 環境教育のすすめ：地球の熱収支を考える	O-06 [J] 気候変動をまなぶ・ひらく・つなぐ-若者と研究者で語ろう-		O-03 [J] 予測できる海！？～国連海洋科学の10年の挑戦～	O-02 [J] 気候変動と再生可能エネルギー利用の課題	S-GL26 S-RD28 S-VC36
201A	G-03 [J] 地球科学・教育と情報デザイン	O-11 [J] 西之島と小笠原諸島の火山たち：ダイナミックな活動を見つめて		O-10 [J] 可視化と表象：地球科学とアートが捉える不可視の世界	O-01 [J] 地球・惑星科学トップセミナー	S-CG69 G-01
201B	G-01 [E] Citizen and Community Science: Building the next-generation environmental scientist and policymaker	G-06 [J] 課題解決型教育と地球科学：持続可能な未来のための共創的学び			G-04 [J] 総合的防災教育	G-02 G-03 G-04
IC	O-09 [J] キッチン地球科学：多様な到達点を生む実験	O-05 [J] 地質と文化-神話・伝承・民俗文化の地球科学(地球神話学)		O-08 [J] 地球が育む食文化～ジオパーク・ガストロノミーと食文化の未来～	O-04 [J] ジオパークとサステナビリティ(口頭招待講演)	G-05 G-06
CH-A	P-PS06 [E] Planetary interiors revealed by observations, experiments, and simulations			S-VC36 [E] Volcanic and igneous activities, and these long-term forecasting		M-IS07 M-IS12 M-IS19
CH-B	M-GI33 [E] 法地質学	L-01 [E] 宇宙惑星科学セクションレクチャー		G-05 [J] 小・中・高等学校、大学の地球惑星科学教育		M-IS24 M-IS25
301A	▶S-EM18 [E] Electric, magnetic and electromagnetic survey technologies and scientific achievements			◀S-EM18 [E] Electric, magnetic and electromagnetic survey technologies and scientific achievements	S-GL26 [E] East Asia Tectonic Evolution and the Panthalassa/ Pacific Plate Tectonic History	M-GI32 M-GI33 M-GI35
301B	▶S-CG69 [J] 地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理			◀S-CG69 [J] 地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理		M-AG41 M-TT45
302	M-IS19 [J] 結晶成長、溶解における界面・ナノ現象			M-ZZ49 [E] 地球化学の最前線：変動の時代に挑む次世代研究		M-TT47 M-ZZ49 M-ZZ51
303	G-02 [J] 地球惑星科学のアウトリーチ・実践と理論			P-CG23 [E] 惑星地震学		
304	S-RD28 [E] New Developments on Unconventional and Sustainable Resources			P-EM16 [E] Coupling Processes in the Atmosphere-Ionosphere System ▶		
POSTERS-ONLY	G-07 [J] ジオパークとサステナビリティ(ポスター)	A-AS02 [E] 大気の鉛直運動を基軸とした地球環境学の新展開	A-CG55 [E] Hydrological and Biogeochemical Processes Across Lake, Sediment, and Rock Continuum	A-HW35 [E] Nature-Based Solutions for Urban Flood Resilience: Hydrology, Infrastructure, and Communities	S-GL23 [E] Convergent Tectonics of Southeast Asia and the Eastern Himalayan Margin	
POSTERS-ONLY	O-12 [J] 高校生ポスター発表	O-13 [E] International Poster Session for high school students				
会場	AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3
	5月24日(日)					

5月25日(月)						会場
AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3	
U-08 [E] Advances in Legacy and Emerging Contaminant Biogeosciences	U-16 [J] 地球科学・地球環境の諸問題と地球衛星観測		U-17 [J] CO環境の生命惑星化学		【現地ポスター】	特設会場(1)
U-02 [E] Applied Math Perspectives on Modeling, Analyzing, and Predicting Complex Geophysical Systems			M-GI28 [E] Data assimilation: A fundamental approach in geosciences	H-CG18 [E] 文化水文学	U-02 U-08 U-16 U-17	特設会場(2)
H-TT14 [E] 高精細地形地理情報と地球表層におけるコネクティブティ			H-GG03 [E] Re-considering Regional Geography		P-PS11 P-EM14	特設会場(3)
S-CG59 [E] Geochronology, Cosmochronology, Thermochronology and Isotope Geology	▶H-GM04 [E] Geomorphology		◀H-GM04 [E] Geomorphology		P-EM16 P-EM21	特設会場(4)
▶M-IS04 [E] Paleoclimatology and paleoceanography			◀M-IS04 [E] Paleoclimatology and paleoceanography ▶		A-AS07 A-AS10 A-AS12	特設会場(5)
	▶S-SS13 [J] 地殻構造		◀S-SS13 [J] 地殻構造	M-IS17 [E] Geo-Environmental Dynamics and Sustainable Development from the Gobi Desert to the Steppe	A-OS23 A-OS25 A-OS27	特設会場(6)
◀S-SS12 [J] 地震発生の物理・断層のレオロジー ▶			◀S-SS12 [J] 地震発生の物理・断層のレオロジー		A-HW31 A-HW32	特設会場(7)
	S-SS05 [E] 地震学一般 I ▶		◀S-SS05 [E] 地震学一般 I		A-HW39 A-GE46 A-GE47	特設会場(8)
S-IT20 [E] Coupling of deep Earth and surface processes			A-AS10 [E] Recent Advances on Radar Meteorology -Dual Polarization, Phased Arrays, and Emerging Technologies-	A-TT50 [E] Soil and Water Monitoring through Innovative Sensing Technologies under Climate Change	A-TT50	101
A-GE47 [E] Soil-Water-Energy Nexus and Sustainable Green Environment	A-HW31 [E] Surface Water-Groundwater Interactions: Physical, Chemical, and Biological Processes		A-GE47 [E] Soil-Water-Energy Nexus and Sustainable Green Environment	A-CG65 [E] Modeling volcanic gas and tephra dispersion in the HPC Era: from local-scale to global	A-CG56 A-CG57 A-CG65 H-GG02	102
▶M-IS02 [E] ENVIRONMENTAL, SOCIO-ECONOMIC, AND CLIMATIC CHANGES IN NORTHERN EURASIA			◀M-IS02 [E] ENVIRONMENTAL, SOCIO-ECONOMIC AND CLIMATIC CHANGES IN NORTHERN EURASIA	M-IS06 [E] 地球流体力学：地球惑星現象への分野横断的アプローチ	H-GG03 H-GM04	103
A-GE46 [E] 地質媒体における流体移動、物質移行及び環境評価			A-OS27 [J] 沿岸域の海洋循環と物質循環		H-TT14 H-CG18	104
▶A-AS07 [E] Models, In situ, and Remote sensing of Aerosols, Clouds, Lightning, and Extreme precipitation (MIRACLE)			◀A-AS07 [E] Models, In situ, and Remote sensing of Aerosols, Clouds, Lightning, and Extreme precipitation (MIRACLE)		S-SS05 S-SS11 S-SS12 S-SS13	105
M-GI34 [E] Data-driven approaches for weather and hydrological predictions			A-HW32 [E] Near Surface Investigation and Modeling for Groundwater Resources Assessment and Conservation		S-IT20 S-RD29	106
▶A-CG57 [E] 海洋と大気の変動・渦・循環の力学			◀A-CG57 [E] 海洋と大気の変動・渦・循環の力学	A-OS21 [E] Physical, biogeochemical, and ecological processes and variability in the Indian Ocean	S-MP31 S-VC39	201A
▶A-OS25 [J] 海洋学一般+H2O			◀A-OS25 [J] 海洋学一般	A-OS23 [E] Waves, Storm Surges, and Coastal Hazards	S-GC45 S-CG59 S-CG61	201B
S-RD29 [E] Cutting-edge sensing technology applied to geology and resource exploration	▶S-MP31 [E] Deformation, metamorphism, and tectonics: Exploring the solid Earth dynamics via rocks		◀S-MP31 [E] Deformation, metamorphism, and tectonics: Exploring the solid Earth dynamics via rocks		S-CG63 S-CG64	IC
M-IS20 [J] ジオパーク	A-OS23 [E] Waves, Storm Surges, and Coastal Hazards	Plenary Talk	S-CG61 [E] Challenges of Climate on Slopes: Study on Shallow Landslide Mechanisms and Sustainable Mitigation		M-IS02 M-IS04 M-IS06	CH-A
▶S-GC45 [E] Volatiles in the Earth - from Surface to Deep Mantle			◀S-GC45 [E] Volatiles in the Earth - from Surface to Deep Mantle	▶S-CG56 [E] Science of Slow and Fast Earthquakes	M-IS17 M-IS20	CH-B
S-CG63 [E] Uncovering stress accumulation and fault strengthening of megathrust earthquakes			S-CG64 [E] Integrative seismic and secondary hazard/risk assessment		M-GI28 M-GI34	301A
S-VC39 [E] Submarine volcanism			P-EM14 [E] 太陽圏・惑星間空間			301B
▶P-PS04 [E] 惑星科学			◀P-PS04 [E] 惑星科学 ▶			302
P-EM21 [E] 惑星大気圏・電磁圏			P-PS11 [E] Mercury Science and Exploration			303
◀P-EM16 [E] Coupling Processes in the Atmosphere-Ionosphere System ▶			◀P-EM16 [E] Coupling Processes in the Atmosphere-Ionosphere System			304
A-AS12 [E] Advancing Precipitation Science and Prediction: The WCRP Global Precipitation Experiment (GPEX)	A-HW39 [E] The Evolving Atmospheric Water Cycle: Feedbacks, Land-Atmosphere Links, and Hydrological Change	A-CG56 [E] Linking Air Pollutants and GHG Emissions to Climate and Environmental Change	H-GG02 [E] International comparison of landscape appreciation and recreation research			POSTERS-ONLY
						POSTERS-ONLY
AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3	会場
5月25日(月)						

## JpGU-AGU 2026 コマ割 2 [5月26日▶27日]

会場	5月26日(火)					
	AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3
特設会場 (1)	U-11 [E] 第四紀および人新世の気候変動			U-04 [E] Advancing Open and FAIR Sciences: strategies, infrastructures, practices, and communities		【現地ポスター】 U-04
特設会場 (2)	H-QR06 [E] ルミネッセンスと ESR: 年代測定と地表変動過程	▶H-TT16 [E] 環境トレーサビリティ手法の開発と適用		◀H-TT16 [E] 環境トレーサビリティ手法の開発と適用		U-11 P-PS01 P-PS04 P-PS07 P-PS10
特設会場 (3)	S-CG58 [E] 地熱地球物理学				H-SC07 [E] 地球温暖化防止と地学 (CO2地中貯留・有効利用、地球工学)	P-EM13 P-EM17 A-AS01
特設会場 (4)	H-CG24 [J] 原子力と地球惑星科学			A-CG61 [E] 炭素循環の観測と解析		A-AS09 A-OS26 A-HW29
特設会場 (5)	◀M-IS04 [E] Paleoclimatology and paleoceanography ▶			M-IS16 [E] Evolution and variability of the Tropical Monsoon and Indo-Pacific climate during the Cenozoic Era		A-CC42 A-CG51 A-CG54 A-CG59 A-CG61 A-CG62 A-CG66 A-CG68
特設会場 (6)	S-MP32 [E] Oceanic & Continental Subduction Processes: petrologic/geophysical/geochemical perspective			M-IS14 [E] Interdisciplinary studies on pre-earthquake processes		H-QR06 H-SC07 H-TT16 H-CG24
特設会場 (7)	S-SS11 [E] Environmental Seismology: from deep earth to surface process			S-SS14 [J] 固体地球科学・地震学における波動現象		S-SS04 S-SS14 S-IT21 S-GL27 S-MP32
特設会場 (8)	S-IT21 [E] 惑星中心核: 内部構造・形成・進化			S-GL27 [J] 日本列島および東アジアの地質と構造発達史		S-VC43 S-CG58 S-CG62 S-CG66 S-CG67 S-CG68 S-CG69 S-CG70
101	A-AS09 [E] Processes of the Moist Atmosphere Across Scales			S-CG62 [E] 地震動・地殻変動・津波データの即時把握・即時解析・即時予測	A-AS01 [E] 高性能計算が拓く気象気候科学 / 日欧連携研究 "HANAMI"	M-IS10 M-IS14 M-IS16 M-IS26 M-GI37 M-TT48 M-ZZ52
102	A-CG54 [E] 陸域生態系の物質循環			M-GI37 [E] 地球掘削科学		
103	M-IS26 [J] 大気電気学: 同分野の物理現象説明から予測・防災への応用まで			M-TT48 [J] インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像	◀M-IS04 [E] Paleoclimatology and paleoceanography	
104	M-IS10 [E] 生物地球化学			M-ZZ52 [J] 海底マンガングル床の生成環境と探査・開発	A-CG59 [E] 高性能マイクロ波放射計 (AMSR) シリーズの観測と成果	
105	A-CG51 [E] Water and Sediment Dynamics from Terrestrial to Coastal Regions [En]			A-CG66 [J] 陸域から沿岸域における水・土砂動態	A-HW29 [E] 都市域の水環境と地質	
106	▶A-OS26 [J] 水圏生態系: 陸域から沿岸への水・物質循環と多様な生態系機能			◀A-OS26 [J] 水圏生態系: 陸域から沿岸への水・物質循環と多様な生態系機能		
201A	▶A-CG62 [E] 変わりゆく中緯度大気・海洋・生態系: 素過程・結合・将来展望			◀A-CG62 [E] 変わりゆく中緯度大気・海洋・生態系: 素過程・結合・将来展望		
201B	A-CC42 [E] Permafrost in transition: causes, impacts and feedbacks	▶A-CG68 [J] 北極域の科学		◀A-CG68 [J] 北極域の科学		
IC		M-GI37 [E] 地球掘削科学		◀S-SS04 [E] 地震活動		
CH-A	◀S-VC43 [J] 活動的火山 ▶		Plenary Talk	◀S-VC43 [J] 活動的火山		
CH-B	◀S-CG56 [E] Science of Slow and Fast Earthquakes ▶			◀S-CG56 [E] Science of Slow and Fast Earthquakes ▶		
301A	S-CG68 [J] 岩石・鉱物・資源 ▶			◀S-CG68 [J] 岩石・鉱物・資源		
301B	P-EM17 [E] 宇宙プラズマ科学			S-CG66 [E] ハイブリッド年代学-ジルコン年代学の次へ		
302	▶P-PS01 [E] Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow			◀P-PS01 [E] Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow		
303	▶P-PS07 [E] 火星と火星衛星			◀P-PS07 [E] 火星と火星衛星	▶P-CG24 [E] 宇宙・惑星探査の将来計画および関連する機器開発の展望	
304	▶P-EM13 [E] Space Weather and Space Climate			◀P-EM13 [E] Space Weather and Space Climate ▶		
POSTERS-ONLY	P-PS10 [E] Martian Evaporites: Windows into Ancient Climates and Cradles for Life					
POSTERS-ONLY						
会場	AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3
	5月26日(火)					

5月27日(水)						会場
AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3	
	U-14 [E] Geoscience across research and education: National priorities and international collaborations		H-CG21 [E] Tropical and subtropical mountains, islands, and forests in a changing climate	U-19 [J] 地球惑星科学の進むべき道13：新ロードマップ-さらなる飛躍へ	【現地ポスター】 U-14	特設会場 (1)
▶H-TT15 [E] Geographic Information Systems and Cartography			◀H-TT15 [E] Geographic Information Systems and Cartography	◀P-EM13 [E] Space Weather and Space Climate	U-19 L-02 P-PS03	特設会場 (2)
H-CG25 [J] 堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動			H-CG23 [E] 核実験の検知に関する地球科学		P-PS05 P-EM20	特設会場 (3)
M-IS15 [E] Wildfire as a geoeological driver in a changing climate			A-HW28 [E] Tracer Hydrology: Advances in Measurement and Modelling		P-CG24 A-AS04 A-AS05	特設会場 (4)
B-PT03 [E] バイオミネラルゼーションと古環境プロキシ			◀B-CG06 [E] 微化石生物学の最前線		A-AS06 A-OS19	特設会場 (5)
S-GD03 [E] Advances in Geodetic Monitoring of Crustal Dynamics, Geohazards, and Environmental Changes			S-SS07 [E] New trends in data acquisition, analysis and interpretation of seismicity		A-HW28 A-HW30 A-HW37	特設会場 (6)
S-CG54 [E] Bridging Pore to Reservoir Scales: Advances in AI, Theory, Measurement, Simulation of Flow&Transport	B-CG06 [E] 微化石生物学の最前線 ▶		S-SS16 [J] 強震動・地震災害 ▶		A-HW38 A-CC43	特設会場 (7)
S-VC35 [E] 噴火・地熱・鉱床のあいだ：全地殻的マグマ-熱水系理解にむけて	▶S-VC37 [E] Understanding the links between volcanic unrest and future, or past, major eruptions		◀S-VC35 [E] 噴火・地熱・鉱床のあいだ：全地殻的マグマ-熱水系理解にむけて		A-CC45 A-TT49 A-CG52	特設会場 (8)
A-HW38 [E] Global Flooding in a Changing World: Trends, Drivers, and Major Open Questions	A-HW37 [E] Global Drought Stress from Headwaters to Lowlands		A-TT49 [E] Machine Learning Techniques in Weather, Climate, Ocean, Hydrology and Disease Predictions		H-TT15 H-CG21	101
	S-TT47 [E] Airborne surveys and monitoring of the Earth		A-AS05 [E] EarthCARE衛星による雲エアロゾル放射科学		H-CG23 H-CG25 S-GD03	102
▶A-AS04 [E] 台風研究の新展開～過去・現在・未来			◀A-AS04 [E] 台風研究の新展開～過去・現在・未来	M-IS23 [J] 歴史学×地球惑星科学	S-SS07 S-SS08 S-SS16	103
A-CC43 [E] アイスコアと古環境モデリング			M-IS11 [E] Extreme Weather and Water-Related Disasters in Asia		S-IT22 S-MP33	104
▶A-HW30 [E] 水循環・水環境			◀A-HW30 [E] 水循環・水環境		S-VC35 S-VC37 S-VC40	105
A-CG52 [E] 静止軌道衛星による陸面観測	▶A-CC45 [J] 雪氷学		◀A-CC45 [J] 雪氷学		S-TT47 S-CG52	106
▶A-OS19 [E] Multiscale Ocean Physical-Biogeochemical-Ecosystem Interactions: Theory, Observation, and Modeling			◀A-OS19 [E] Multiscale Ocean Physical-Biogeochemical-Ecosystem Interactions: Theory, Observation, and Modeling		S-CG53 S-CG54	201A
▶A-AS06 [E] 大気圏(成層圏・対流圏)過程とその気候への影響			◀A-AS06 [E] 大気圏(成層圏・対流圏)過程とその気候への影響	S-MP33 [E] Granites: Petrochronology, Processes and Crustal Growth	S-CG56 S-CG60 S-CG71	201B
▶S-VC40 [E] Volcanic eruption dynamics and mechanisms: controlling physical and chemical processes	L-02 [E] 大気水圏科学の最前線 3「近年の世界と日本の極端高温」		◀S-VC40 [E] Volcanic eruption dynamics and mechanisms: controlling physical and chemical processes		B-PT03 B-CG06	IC
▶S-IT22 [E] 地球深部科学と材料科学との融合による新展開		Plenary Talk	◀S-IT22 [E] 地球深部科学と材料科学との融合による新展開▶		M-IS11 M-IS15 M-IS23	CH-A
◀S-CG56 [E] Science of Slow and Fast Earthquake s▶			◀S-CG56 [E] Science of Slow and Fast Earthquakes		M-IS27 M-GI30 M-TT46	CH-B
S-CG60 [E] ハードロック掘削科学：陸上・深海底掘削、そしてオフサイト			S-CG71 [J] 機械学習による固体地球科学の牽引			301A
P-PS05 [E] Regolith Science			M-IS27 [J] 海底のメタンを取り巻く地圏-水圏-生命圏の相互作用と進化			301B
	▶P-PS03 [E] Small Solar System Bodies: New perspectives on the origin and evolution of the Solar System		◀P-PS03 [E] Small Solar System Bodies: New perspectives on the origin and evolution of the Solar System			302
▶P-CG24 [E] 宇宙・惑星探査の将来計画および関連する機器開発の展望			◀P-CG24 [E] 宇宙・惑星探査の将来計画および関連する機器開発の展望			303
◀P-EM13 [E] Space Weather and Space Climate	▶P-EM20 [E] 太陽地球系結合過程の研究基盤形成		◀P-EM20 [E] 太陽地球系結合過程の研究基盤形成			304
A-AS13 [E] Cyclone Genesis and Intensification Interactions with Tropical Waves Atmospheric Rivers and Climate	S-SS08 [E] Listening to the Living Earth: Seismological Perspectives on Environmental Processes	S-CG52 [E] Crustal fluids and deformation	S-CG53 [E] Submarine geohazards and its application	M-GI30 [E] Global high-altitude mountains and volcanoes as laboratory for studying environments and hazards	M-TT46 [E] Multi-Sensing of Extreme Phenomena	POSTERS-ONLY
						POSTERS-ONLY
AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3	会場

## JpGU-AGU 2026 コマ割 3 [5月28日▶29日]

会場	5月28日(木)					
	AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3
特設会場 (1)	U-06 [E] Satellites, Societies, and Sustainability			U-07 [E] 北西太平洋域における生態系変動とその地球規模環境変動との関連		【現地ポスター】 U-06
特設会場 (2)	U-15 [E] 多様な自然災害関連情報の利活用：被害軽減に向けた統合・展開				M-IS05 [E] 風化：メカニズム、影響、学際的視点	U-07 U-15
特設会場 (3)	M-IS22 [J] 地質学のいま			H-RE12 [E] 海底鉱物資源とその陸上アナログ		P-PS02 P-PS12
特設会場 (4)	H-DS11 [J] 防災リテラシー			H-DS10 [E] Human-Environment Dimensions of Disaster Risk Management and Finance: Reducing Loss of Life and Property		P-EM15 P-EM18 P-AE22
特設会場 (5)	B-CG05 [E] Methane in terrestrial and aquatic ecosystems: from microbes to the atmosphere			B-BG01 [J] 岩石生命相互作用とその応用		A-AS03 A-OS16
特設会場 (6)	▶S-CG57 [E] 岩石-流体相互作用の新展開：表層から沈み込み帯深部まで			◀S-CG57 [E] 岩石-流体相互作用の新展開：表層から沈み込み帯深部まで		A-OS20 A-OS24
特設会場 (7)	M-GI39 [J] データ駆動地球惑星科学：数値モデリングから天然データまで	◀S-SS16 [J] 強震動・地震災害		▶S-EM17 [E] 地磁気・古地磁気・岩石磁気		A-HW36 A-CC41
特設会場 (8)	▶S-GD01 [E] 測地学・GGOS	S-TT51 [E] ベイズ統計学が拓く地震データ解析の最前線		◀S-GD01 [E] 測地学・GGOS		A-CG63 A-CG67 H-DS10
101	▶A-HW36 [E] 流域圏における物質輸送・生物多様性・環境変動			◀A-HW36 [E] 流域圏における物質輸送・生物多様性・環境変動		H-DS11 H-RE12
102	M-AG40 [E] Renewable Energy			A-OS24 [J] 海洋微生物生態系	M-IS03 [E] 粒子重力流：理論・実験・観測と防災への応用に向けて	H-CG22 S-GD01
103	▶A-AS03 [E] Extreme Events and Mesoscale Processes: Observations and Modeling			◀A-AS03 [E] Extreme Events and Mesoscale Processes: Observations and Modeling		S-SS09 S-EM17 S-MP34
104	▶A-CG63 [E] 衛星による地球環境観測			◀A-CG63 [E] 衛星による地球環境観測 ▶		S-VC38 S-VC41
105	A-OS20 [E] Biogeochemical and Ecological Processes in the Open Ocean			M-IS08 [E] ダスト		S-GC46 S-TT48
106	A-CG67 [J] 海洋表層 - 大気間の生物地球化学			S-GC46 [E] 固体地球化学・惑星化学	S-VC38 [E] 火山災害と防災 (英語)	S-TT51 S-CG55
201A		▶M-IS01 [E] グローバル南極学		◀M-IS01 [E] グローバル南極学		S-CG57 B-BG01 B-CG05
201B	S-SS09 [E] From Precursors to Recovery: Evolving insights into the 2011 Mw 9.0 Tohoku-oki Earthquake			S-MP34 [J] 鉱物の物理化学		M-IS01 M-IS03
IC		M-GI29 [E] Learning from the past to forecast the future environment, climate, and hazards in Pacific Islands			▶A-AS08 [E] 大気化学	M-IS05 M-IS08
CH-A	S-VC41 [E] Crystal clear: petrological reconstructions of magmatic processes and histories		Plenary Talk	S-TT48 [E] Advancing Earth Science through Fiber Optic Sensing Techniques and Integrated Analysis		M-IS22 M-GI29
CH-B	S-CG55 [E] Oceanic plate as inputs to subduction zone and the subduction initiation			▶S-CG70 [J] 海洋底地球科学		M-GI39 M-AG40 M-ZZ50
301A	▶P-EM15 [E] Frontiers in solar physics: observation, modeling, and long-term research from the past to the future			◀P-EM15 [E] Frontiers in solar physics: observation, modeling, and long-term research from the past to the future		
301B	▶P-AE22 [E] 系外惑星			◀P-AE22 [E] 系外惑星		
302	▶P-PS12 [J] 太陽系物質進化			◀P-PS12 [J] 太陽系物質進化		
303	▶P-PS02 [E] Lunar Science and Exploration			◀P-PS02 [E] Lunar Science and Exploration		
304	▶P-EM18 [E] Dynamics of Magnetosphere and Ionosphere			◀P-EM18 [E] Dynamics of Magnetosphere and Ionosphere		
POSTERS-ONLY	A-OS16 [E] Tropical Cyclone-Ocean Interactions: From Weather to Climate	A-CC41 [E] The Changing (sub)Arctic Ocean: Mechanisms and Impacts	H-CG22 [E] Human Geoscience for Peace and Sustainable Development	M-ZZ50 [E] Sustainable Ocean Minerals in the Global South: Social-Ecological-Technological Systems		
POSTERS-ONLY						
会場	AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3
	5月28日(木)					

5月29日(金)						会場
AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3	
U-05 [E] Natural Hydrogen, Understanding its Subsurface System and Production Engineering	U-12 [E] Safeguarding Science in a Changing Global Landscape		U-09 [E] 都市地盤地質と防災リスクマネジメントの未来	U-03 [E] 生成AI時代の学術出版: 透明性・信頼性・倫理の課題	【現地ポスター】 U-05	特設会場 (1)
			H-GG01 [E] Dialogues on natural resources and environment between earth and social sciences		U-09	特設会場 (2)
▶H-DS08 [E] 地すべりおよび関連現象			◀H-DS08 [E] 地すべりおよび関連現象		P-PS09	特設会場 (3)
▶H-CG17 [E] Tsunami science: learn from the past and mitigate future disasters			◀H-CG17 [E] Tsunami science: learn from the past and mitigate future disasters		P-PS09	特設会場 (3)
▶B-CG04 [E] 全地球型惑星史解説: その誕生から現在まで			◀B-CG04 [E] 全地球型惑星史解説: その誕生から現在まで		P-EM19	特設会場 (4)
					P-CG25	特設会場 (4)
	▶S-SS10 [E] 活断層と古地震		◀S-SS10 [E] 活断層と古地震		A-AS08	特設会場 (5)
◀S-EM17 [E] 地磁気・古地磁気・岩石磁気			S-MP30 [E] Supercontinents and Crustal Evolution		A-AS11	特設会場 (5)
S-GL25 [E] Cretaceous-Paleogene Evolution of the Circum-Pacific from Geology and/or Geodynamics	▶S-CG65 [E] 変動帯ダイナミクス		◀S-CG65 [E] 変動帯ダイナミクス		A-AS15	特設会場 (6)
A-OS17 [E] Sea level rise under global warming and its impact on coastal areas	A-CG60 [E] 有人・無人航空機による気候・地球システム科学研究の推進		A-AS11 [E] 気象の予測可能性から制御可能性へ		A-OS17	特設会場 (6)
A-HW34 [E] 同位体水文学2026			M-IS18 [E] Multi-(hazard) risk assessments: Innovative approaches for disaster risk reduction and management		A-OS22	特設会場 (7)
A-AS15 [J] 気象学一般					A-HW34	特設会場 (7)
	M-IS21 [J] 南大洋・南極氷床の科学		A-CG64 [E] 地球規模環境変化の予測と検出		A-CC44	特設会場 (7)
▶A-AS08 [E] 大気化学			◀A-AS08 [E] 大気化学		A-CG60	特設会場 (8)
M-IS13 [E] Regional and global urban climate processes across multi-temporal scales			M-SD44 [J] 将来の衛星地球観測		A-CG64	特設会場 (8)
A-OS22 [E] Advancing global ocean observation through the expansion of Argo to OneArgo			M-AG42 [J] 環境放射能動態 -福島第一原子力発電所事故後の課題-		H-GG01	101
A-CC44 [E] Recent advances in understanding of subglacial environments and processes					H-DS08	101
S-VC44 [J] 火山防災の基礎と応用			S-VC42 [J] 火山の熱水系		H-CG17	102
S-TT50 [E] 稠密多点GNSS観測が切り拓く地球科学の新展開	U-01 [E] Great Debate: International Perspectives on the Future Geosciences-Funding Policies and Research Directions		S-TT49 [E] 合成開口レーダーとその応用		S-SS10	102
S-TT48 [E] Advancing Earth Science through Fiber Optic Sensing Techniques and Integrated Analysis	▶S-CG70 [J] 海洋底地球科学		◀S-CG70 [J] 海洋底地球科学		S-SS15	103
M-GI38 [E] 情報地球惑星科学とデータ利活用					S-GL24	103
▶M-IS09 [E] アストロバイオロジー					S-GL25	103
P-PS09 [E] Asteroid and Comet Missions for Science and Planetary Defense					S-MP30	104
M-GI36 [E] 計算科学が拓く宇宙惑星地球科学					S-VC42	104
▶P-EM19 [E] Dynamics of the Inner Magnetospheric System					S-VC44	105
S-SS15 [J] 地震学一般 II	S-GL24 [E] Crustal evolution in collision zones and its impacts on Earth's habitability	M-GI31 [E] Advancing pre-disaster measures for large earthquakes: Integrating science and society	M-SD43 [E] Advancing Earth Observation with ALOS-4, ALOS-2 and NISAR		S-TT49	105
					S-TT50	106
					S-CG65	106
					S-CG70	106
					B-CG04	201A
					M-IS09	201A
					M-IS13	201B
					M-IS18	201B
					M-IS21	IC
					M-GI31	IC
					M-GI36	IC
					M-GI38	CH-A
					M-AG42	CH-B
					M-SD43	CH-B
					M-SD44	CH-B
						301A
						301B
						302
						303
						304
						POSTERS-ONLY
						POSTERS-ONLY
AM1	AM2	Lunch Break	PM1	PM2	PM3	会場

## 会場マップ

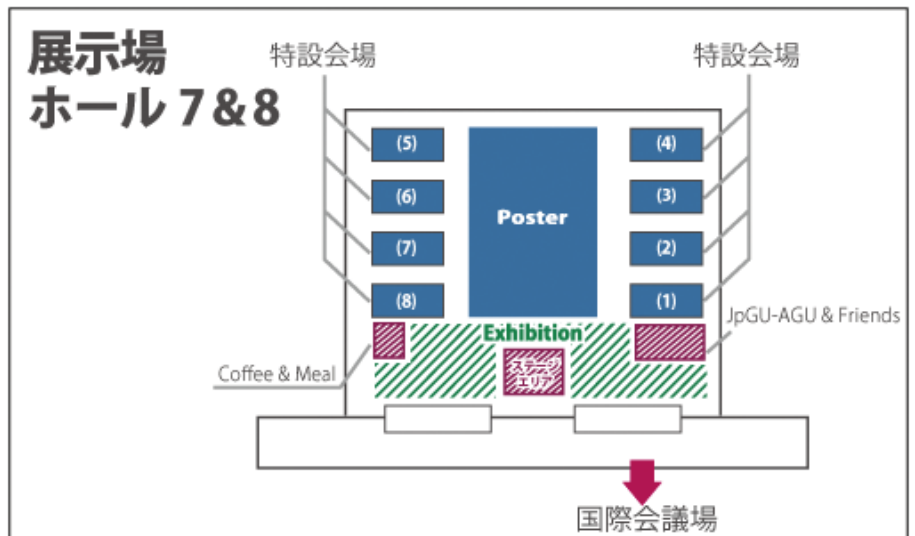
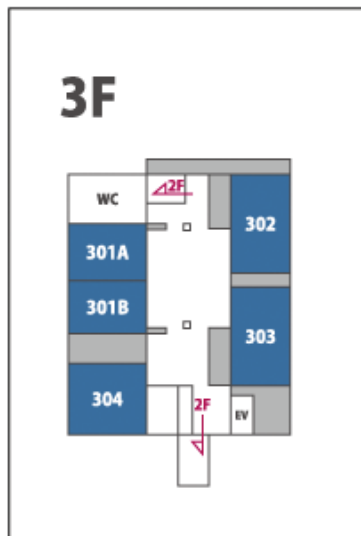
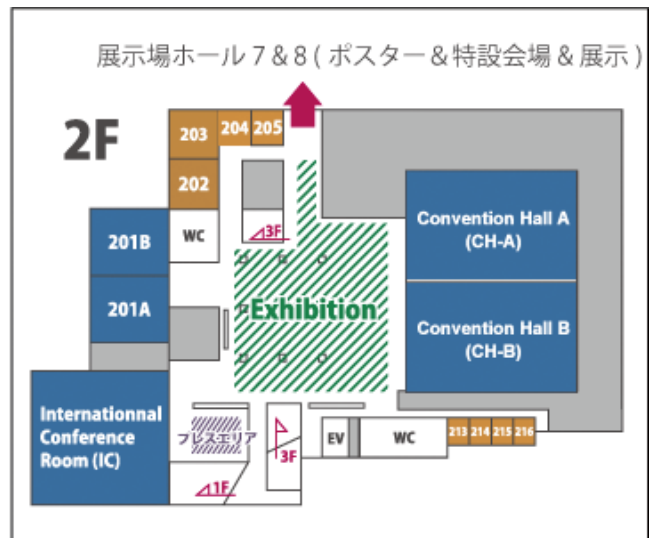
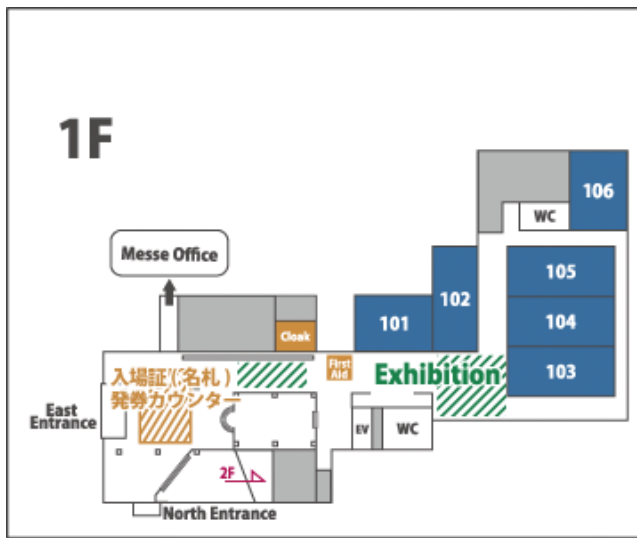
### 【口頭会場】

口頭発表は、国際会議場（101～304）および展示場ホール7・8の特設会場で行われます。

### 【ポスター会場】

現地ポスターの会場は、展示場ホール7・8です。

※各会場の開場時間は8:00です。



## 中高地学教育関係者情報交換会 開催報告

教育検討委員会 教育課程小委員会 相川 充弘 (浅野中学・浅野高等学校)

2026年3月8日、武蔵野大学において地学教育関係者情報交換会を開催した。各校に地学を専門とする教員が一人もいない場合もあり、日常的な情報交換の機会に限られる中、本会は対面形式により実施した。当日は中学校・高等学校教員を中心に、大学教員、研究者、出版社関係者など計45名が参加した。

はじめに、「必履修化した地理の学習内容を地学に活かす」をテーマに、豊島岡女子学園中学校高等学校の高橋裕氏による講演が行われ、地理と地学を横断的に捉える視点について多くの示唆が得られた。

続く情報交換では、「地学分野で学びたい内容についてのこだわり」と「実験・実習、教材の工夫について」の共有が行われた。教材の共有では、「生痕化石の教材化」

「手作り地球儀」「水蒸気噴火実験」「スマート望遠鏡による天体観察」「津波堆積物を活用した教育活動」など計14種類の出展があり、参加者は興味関心のあるブースを巡りながら、具体的な授業実践や教材の工夫

について熱心に意見交換を行った。

本会を通して、参加者相互の交流が深まり、地学教育の実践と知見を共有する有意義な機会となった。今後もこうした場を通じて、地学教育の充実を図っていきたい。



情報交換会の様子

## ぶらりがく for ハイスクール with JpGU 開催報告

広報普及委員会 後藤 和久 (東京大学)

2026年3月20日(金)に、東北大学青葉サイエンスホール(仙台)にて「ぶらりがく for ハイスクール with JpGU」が開催された。主に高校生を対象として、最先端の研究を行っている研究者による模擬講義や東北大学理学部・理学研究科の学生や研究者との交流を目的としたイベントである。東北大学の都築暢夫理学部長のご挨拶の後、今回は東北大学の数学専攻から“三角形の内角の和が180度ではない世界”と題して阿蘇愛理先生に、東北大学の地球物理学専攻から“火星衛星探査計画 MMX が明らかにする火星圏と太陽系の進化”と題して中川広務先生に、そしてJpGU側からは私が“理学でひも解く南太平洋の災害神話”と題して模擬講義を行った。

阿蘇先生の講義は非ユークリッド幾何学に関係するものであり、手書きのイラストも交えた大変わかりやすい内容だった。参加者からは、数学の道を選ばれた経緯など様々な質問があった。次に私の講義では、

南太平洋に伝わる災害伝承を理学的に調査し実証していく文理融合的な研究について紹介した。南太平洋以外にも同様の研究が行われているのかなどの質問があった。中川先生の講義は、2026年度に打ち上げ予定の火星衛星探査に関する内容であり、衛星フォボスを対象とした理由や明らかにしようとしている仮説などについて紹介があった。会場からは、MMX や宇宙探査に関わる様々な質問があった。

模擬講義後には交流会を開き、講演者たちや東北大学の学生たちと中高校生との間で、講演内容、興味のある学問、大学への進路、研究生活に関する会話が合った。中高校生からは、興味のある研究を行うために今から何をしておけばよいかなど、大変熱心に質問が出ており、会場は熱気に包まれていた。講演会・交流会への中高校生の参加者は57名で、盛況のうちに終了することができた。



講演会の様子

## 第27期からの法人化準備と地球惑星科学・夢ロードマップ改訂

日本学術会議地球惑星科学委員会委員長 佐竹 健治

これまでもお知らせしてきましたが、日本学術会議は本年（2026年）10月に始まる第27期から特殊法人化されます。現在、次期の会員選考・学術会議内部の制度設計・規則などの準備が進められております。

次期（2026年10月以降）の会員については、これまでの現会員や連携会員からの推薦（コ・オペレーション）に加え、大学・研究機関・学会等へも推薦の依頼が出されました。これらの推薦の合計は855名となり、現会員・現連携会員のうち次期会員の候補となることのできる者958人と併せ、重複を除いた計1725人が候補者となっております。この中から125名の会員を選考するため、現在、各セクションにおける業績審査と候補者選考委員会における選考が行われています。今後、8月の臨時総会における承認を経て、現在の日本学術会議会長が（内閣総理大臣ではなく）、次期の会員を任命することになっています。なお、現在（26

期）の会員の半数（合計105名）は27期も継続しますので、次期の会員数は230名となる（第28期からは250名）予定です。一方、連携会員については、まだその制度そのものが固まっておらず、今期中（2026年9月まで）に新たな候補者の選考を行うことは困難な状況であり、現在の会員および連携会員が当面（次期の3年間）継続することが検討されています。連携会員の制度・選考方法などについては、日本学術会議のウェブサイトやJpGUニュースなどで逐次お知らせします。

現在、日本学術会議の地球惑星科学委員会では、JpGUと共同で、「地球惑星科学分野における科学・夢ロードマップ」の改訂作業を進めています。これは、今後30年程度の長期的観点で地球惑星科学分野が目指すべき発展の方向性と目標を抽出して道筋を示すもので、最近のものは2020年にまとめられ、JpGUや日本学術会議のウエ

ブサイトで公開されています。これに関連して、日本学術会議では、2023年から地球科学を含む全学術分野の「未来の学術振興構想」を发出しており、現在2026年版への小改訂作業が行われている一方、2029年度頃に大改訂がなされると想定されます。これを見据え、「地球惑星科学分野の科学・夢ロードマップ」を日本学術会議への2026年度末の提出を目途に再度改訂することを目指しています。現行のロードマップの構成をベースに、JpGUの各科学セクションに対応する5分野について、2030-2060年を横軸、発展レベルを縦軸としたロードマップを作成しつつあります。これらについては、5月のJpGU-AGU合同大会のユニオンセッション（U-19）において原案をお示しするとともに、議論をしていただく予定です。将来を担う若手も含めた多くの皆様の参加を期待しております。

# とめ

# 株式会社とめ研究所

## 私たちが目指す社会

私たちが目指す社会、それは機械をより賢くし、"人と機械が共生する社会"をつくり、"生活が楽しくなる"こと。この思いに基づき、経営ビジョンを「人と機械の共生でもっと生活を楽しく」にしています。

当社のエンジニアは皆、経営ビジョンに繋がる面白い技術的課題に向き合い、思う存分能力を発揮しています。そのような会社であり続けたい思いから、経営理念を「面白い事をして社会や生活を変える」にしています。

経営ビジョンの実現には幅広い分野での貢献が必要です。事業ミッション「お客様の研究開発へ貢献する“ソフトウェア研究開発受託会社”」のもと、日本全国の多くのお客様に貢献しています。



- 得意分野は最先端ソフトウェアの研究開発。人工知能、データサイエンス等。
- 高度な技術集団。エンジニアは5割が博士号取得者、8割が博士課程出身。
- 日本全国の研究開発を受託。大手企業研究所等のパートナーとして実績多数。
- 博士課程新卒、既卒者積極採用中。選考では研究で培った能力を重視。

人と機械の共生でもっと生活を楽しく  
とめ 株式会社とめ研究所  
URL : <https://www.tome.jp>

# 南海トラフ地震発生評価： 物理的拘束と「不確かさの幅」の提示

東京大学名誉教授 平田 直

地震調査研究推進本部地震調査委員会が2025年9月に公表した「南海トラフ地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」で導入された、すべり量依存BPT (SSD-BPT) モデルとベイズ推定の意義を解説する。従来の評価に対し、本改訂では歴史地震の発生時期と室津港の隆起量を統計的に統合し、不確実性を含む確率分布として提示した。SSD-BPTモデルによる30年以内の発生確率は「60～90%程度以上」（2026年1月1日基準）と高く、防災上極めて重要である。不確実性の幅の明示はリスクコミュニケーションにも不可欠であり、今後もデータの蓄積により評価の更新が継続される。

## はじめに

地震調査研究推進本部（以下、地震本部）は、1995年の設立以来、地震発生の可能性に関する定量的な評価を行ってきた。2025年3月、地震本部地震調査委員会（以下、地震調査委員会）は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」（以下、改訂版）を発表した（地震調査委員会、2025）。改訂版では、初めてベイズ推定法を採用し、従来の点推定からベイズ的な枠組みを用いた区間推定（信用区間の推定）へと移行した。これは、地震学が抱える観測データの少なさとモデルの不完全さへの対応である。本稿では、この新手法と確率の意味を整理し、「不確かさの幅」の提示がもたらす意義を考察する。改訂版の詳細は地震調査委員会（2025）、その解説は平田（2026a, b）を参照していただきたい。

## プレート境界地震発生のモデル

地震調査委員会が採用している海溝型地

震の統計的枠組みは、地震発生間隔が一定の値の周りでばらつく「ブラウン経過時間 (BPT) モデル」である。このモデルは次のような物理的なイメージでモデル化されている。巨大地震が発生するプレート境界に加わる力（例えば、剪断力）がプレート運動と不規則な擾乱によって増加したとき、一定の閾値を超えた時に地震が発生すると考えるモデルである（図1）。

この物理モデルは「ブラウン緩和振動モデル」と呼ばれる。数理的には、プレート境界での剪断力  $Y(t)$  の載荷を、プレート運動による定常的な載荷（ドリフト項  $\eta t$ ）と、周辺で発生する地震等の影響（擾乱：ブラウン運動  $\sigma W(t)$ ）の和（ドリフト項付ブラウン運動）として表すことができる。

地震時に剪断力が0に落ちるとすると、最初に閾値  $\tau$  を超える時間  $T_r$  の分布はブラウン経過時間分布 (Brownian Time Passage Distribution: BPT 分布) になる。この仮定に基づくモデルを、ここでは、「標準ブラウン緩和振動モデル」と呼ぶ（図1

(a)）。このモデルでは、剪断力が0に落ちると仮定しても、擾乱の影響により発生間隔  $T_i$  は一定にはならない。

## 第二版一部改訂の概要

現実のプレート境界では、地震ごとに規模やすべりが異なる。ブラウン緩和振動モデルにおいて、すべり量が大きければ次の地震までの間隔は長くなり、小さければ短くなる（図1 (b)）。このようにすべり量に依存する振動を、ここでは、「すべり量依存ブラウン緩和振動モデル」と呼ぶ。

この時、閾値  $\tau$  に達するまでの時間  $T_r$  はすべり量に依存した BPT 分布になり、これが改訂版で採用された「すべり量依存 BPT (SSD-BPT) モデル」である。図1 (b) では、地震ごとのすべり量  $u_i$  が異なり、 $Y(t)$  は、最初に0、次は0.7、さらに0.3に落ちる例を示している。次の地震までの間隔  $T_i$  は、擾乱に加えてすべり量  $u_i$  に依存して変化する。

従来の評価では、すべり量と次の地震までの間隔が比例するという「時間予測モデル」を決定論的に適用して、BPT 分布の平均発生間隔に置きかえてきた。しかし、すべり量の指標となる地震時の隆起量には計測誤差やモデル自体の不確実性が避けられない。そこで本評価では、統計的にすべり量に依存する条件付き確率モデルを採用するとともに、限られたデータからパラメータを精度良く推定するため、最新の地震学的知見を「事前確率分布」として取り入れるベイズ推定法を導入した。

## ベイズ推定

本節では、改訂版で用いられたベイズ推定の考え方を説明するが、既知の方は読み飛ばしていただきたい。

一般的な推定法に最小二乗法がある。これは観測値と計算値の差を最小化する手法で、統計学的には「最尤推定法」に基づく。データには偶然誤差が含まれると仮定し、その誤差が正規分布等に従うというモデルのもとで、観測データが得られる確率（尤度）を最大化するモデルパラメータを求める。これが頻度論的な最尤推定法である。

しかし、独立なパラメータ数に対して観測データが少ない場合、この手法では解が

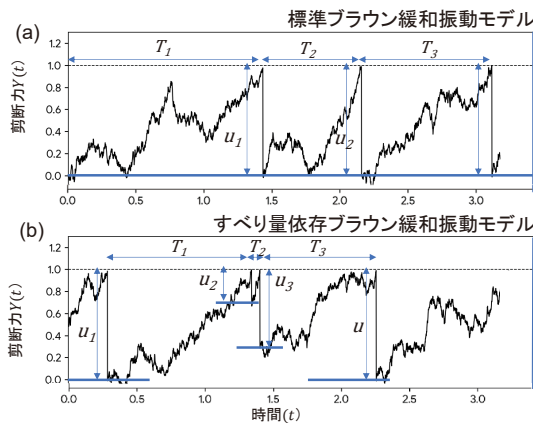


図1 ブラウン緩和振動モデル。剪断力  $Y(t)$  は、ドリフト項  $\eta t$  とブラウン擾乱  $\sigma W(t)$  の和。  $\eta = 1$ ,  $\sigma = 0.5$  とし、 $Y(t)$  が1になると地震が発生するとした例。(a) 標準ブラウン緩和振動モデル。(b) すべり量依存ブラウン緩和振動モデル。

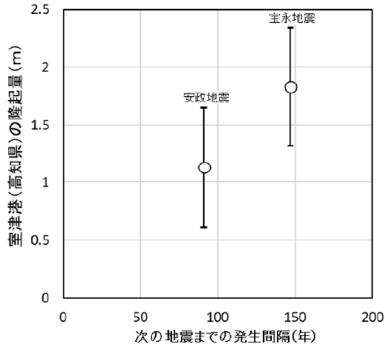


図2 室津港(高知県)での南海トラフ地震時の隆起量(地震調査委員会, 2025)。丸印とエラーバーは、隆起量の平均値(期待値)と標準偏差を示す。

求まらない(不定問題)。そこで、パラメータに関する事前の知識を「事前確率」として導入し、観測データの「尤度」と組み合わせることで解を導くのがベイズ推定である。

事前確率に尤度を乗じると「事後確率」が得られる(ベイズの定理)。ベイズ推定には、データ不足を補うという側面だけでなく、既存の知見を新たなデータで更新(アップデート)していくという積極的な意義がある。また、計算機科学の発展により、複雑な事前分布から数値的に事後分布を求めることが可能となった。現在、AIや機械学習が大きな成果を上げている背景には、この手法の活用がある。

改訂版で用いられた事前情報は、プレート運動から規定される室津港の沈降速度(年5~18 mm)と、既往研究から得られた地震発生間隔のばらつき(変動係数)である。この事前情報に、実際の観測データ(尤度)を掛け合わせて情報を更新することで、史料に基づく推定値に含まれる認識論的不確実性を統計モデルに内包させつつ、物理的妥当性を損なわない現実的な将来予測を可能にしている。

すべり量データを用いない、地震発生時期だけを用いたBPTモデルでも同じベイズ推定法で評価した。BPTモデルのモデルパラメータは、平均発生間隔と変動係数であるが、この二つは観測された地震発生履歴以外には事前情報がないので、代表的な無情報事前分布の一つであるジェフリーズ事前分布を用いた(関数形などの詳細は地震調査委員会(2025)・平田(2026b)を参照)。

## 評価結果と解釈

南海トラフ地震の評価で重要なデータは、歴史資料に基づく発生時期と室津港(高知県)の隆起量に代表されるすべり量のデータである。歴史資料に基づく発生時期と室津港の隆起量データには、すべり量依存モデルから期待される相関関係が

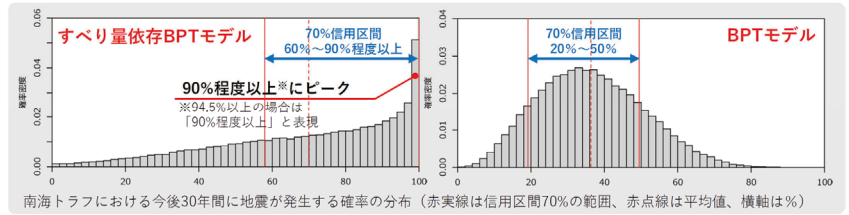


図3 地震発生確率。南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改定)による(地震調査委員会, 2025)。

認められる(図2)。

これらのデータをベイズ統計の枠組みに適用し、事前確率分布を満たすパラメータの組み合わせで、事後確率を求める数値計算を10万回繰り返して得られた発生確率の分布を図3に示す。今回の改訂で示された30年以内の発生確率(2025年1月1日を基準日)は、SSD-BPTモデルでは「60%~90%程度以上」となり、発生時期のみを考慮した従来のBPTモデル(20%~50%)を大きく上回る結果となった(図3)。この二つの結果はいずれも、発生確率は「高い」といえる。なお、この計算には、昭和の南海トラフでの地震以降現在まで南海トラフでは巨大地震が発生していないという情報も含めて計算されている。また、この評価が出されたのは2025年9月であるため、基準日は2025年1月1日とされていたが、2026年1月1日を基準とした場合でも、有効数字1桁に丸めた場合、70%信用区間の値に変更はない。

地震調査委員会がこれら二つのモデルによる確率分布を併記したのは、いずれも科学的な妥当性を有しているためである。一方、防災上の観点からは、可能性の高い方(SSD-BPTモデル)を重視して備えるべきである。

## 他分野の確率評価とリスクコミュニケーション

不確実性を確率論的に扱う手法は他分野で先行している。医療現場での難易度の高い手術や、金融実務における極値リスクの

定量化などがその例である。

南海トラフ地震が示す「60%~90%程度以上」という数値は、人生を左右する他分野のリスク(10~30%程度)と比較しても極めて大きく、もはや逃れることのできない「必然的な事象」に近い。

今回の評価で「モデルによる数値の幅」が提示されたことは、リスクコミュニケーションにおいて重要である。科学的情報には不確実性が伴うことを明示し、専門家内での解釈の多様性を明らかにすることが、社会的な納得感の醸成に繋がる。

## おわりに

ベイズのアプローチの利点は「逐次更新」にある。今後データが蓄積され、知見が増えれば、確率の分布も変わっていく。地震学は決定論的な正解を出す学問ではなく、観測と論理によって「不確かさの幅」を狭めていく道程である。今回の数値は、その重みを社会と共有し、行動変容を促すための科学からの問いかけである。

—参考文献—

- 地震調査研究推進本部地震調査委員会(2025) 南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂), 文部科学省。
- 平田直(2026a) 科学, 96(2), 101-106.
- 平田直(2026b) GBRC, 51(2), 6-13.

■一般向けの関連書籍

- 平田直(2024) 地震を知って震災に備える, 朝倉書店



著者紹介 平田直 Naoshi Hirata

東京大学名誉教授

専門分野: 観測地震学, 統計地震学に基づく地震発生機構と発生予測の研究, およびその知見を地震防災に社会実装する活動に従事。

略歴: 東京大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程修了, 理学博士(東京大学), 東京大学理学部助手, 千葉大学理学部助教授, 東京大学地震研究所助教授, 同教授, 同研究所長を経て, 2020年東京大学を退職, 2022年まで防災科学技術研究所参与を務める。

# 高精細地形情報が拓く自然地理学の新地平

北海道大学 地球環境科学研究所 早川 裕式

3次元計測技術の普及が、地形学をはじめとする自然地理学の分野に変革をもたらしている。現実空間をデジタルデータとして精密に再現し、従来の点や線による記録から、マルチスケールな面的・立体的な解析、さらには物理プロセスの解明へと研究を深化させた。地震による海岸隆起の定量化や、登山道の侵食メカニズムの解明といった研究事例を通じ、高精細地形情報が災害対応や環境保全に果たす役割を詳述する。さらに、技術の民主化がもたらす市民参加型管理の可能性や、過去から未来への地理的想像力を喚起するメディアとしての側面に触れ、科学と社会をつなぐ新たな架け橋としての展望を提示する。

## 3 次元計測がつなぐ マルチスケールの視点

我々が暮らす空間は3次元の広がりをもつが、従来の手法は紙地図や写真といった2次元への縮約に依存し、3次元構造そのものの定量化は長らく困難であった。しかし近年、この障壁を取り払う3次元計測技術が、計算機能力の向上とソフトウェアの洗練も相まって普及した。これにより高精細地形情報の取得が容易になったことで、地形学や生態学、考古学等の現場に革命が起きている。

この進化を支える両輪が、自らレーザを発するレーザ測量 (Lidar) と、環境光を利用する SfM 多視点ステレオ写真測量 (SfM-MVS) である。Lidar の強みは植生を透過して地表を捉える点にあり、近年の小型化・低価格化により無人航空機 (UAS, uncrewed aerial system) や iPhone Pro 等のスマートフォンにも搭載され普及した。対して SfM-MVS は、カメラさえあれば手軽にリアルな色情報を得られ、また赤外線などにより不可視な情報も得ることができる。ただし、植生下の地盤や特徴点のない壁面や地面、あるいは波打つ水面などの計測は苦手とする。

これらを適材適所で組み合わせることで、視点の自由度と撮影の解像度が飛躍的に向上する。UAS による「鳥の目」は広域の景観や地形構造を捉え、地上・モバイル Lidar による「虫の目」は足元の微細な風化や侵食を克明に記録する。このマルチスケールなデータを統合することで、広範な地理的現象と局所的な物理プロセスとをシームレスに接続する解析手法が確立されつつある。

## 高精細地形情報の3形態

高精細地形情報の主な形式は3つある。「点群 (Point cloud)」は、XYZ 座標をもつ点の集合体であり、色や反射強度などの属性をもつ。計算機能力の向上や、

点群を入れ子人形のようにタイリ化し対象範囲の情報を抜き出すことにより、何億点であっても3次元表示や解析が容易に実現できるようになった。

「メッシュ (Mesh)」は、点を三角形で結び連続した「面」としたものであり、体積計算や物理シミュレーション、あるいは3Dプリンタによる模型出力に適する。とくに高解像度テクスチャを伴うモデルは、視覚的にリアルな質感を持つアーカイブとして仮想空間 (VR) での博物館展示などでも活用される。

「DEM (数値標高モデル)」はグリッドごとの標高値データで、データ構造が単純で計算負荷が低く、GIS (地理情報システム) による解析によく使われる。ただし、真上から見た「2.5次元」データであるため、オーバーハングした崖や洞窟などの表現には向かない。DEMは、樹木や建物を含む DSM (Digital Surface Model) と、それらを除いた地盤高である DTM (Digital Terrain Model) に大別され、一般に SfM 空撮では植生上面の DSM が、Lidar では枝葉の隙間をくぐり抜けたレーザにより DTM が得られる。

## 能登半島地震と 3次元計測

3次元計測技術は、平時のモニタリングだけでなく、一刻を争う災害時の状況把握においてもその真価を発揮する。2024年1月1日に発生した能登半島地震では、マグニチュード7.6の激震が、斜面崩壊や火災、広範囲な地盤隆起を引き起こした。半島という地理的特性と道路網の寸断により現地へのアクセスが困難な中、高精細地形情報の取得と活用が広く展開された。

注目されるのは、異なるスケールの計測技術が即座に動員・統合されたことである。発災直後から航空機レーザ計測 (ALS) が広域の地形変化を捉え、UAS が局所的な被災箇所を高解像度で記録した。さらに地上ではモバイル Lidar により、倒壊家屋のひしめく集落を歩いてスキャンし、人間目線での被害状況をデジタル化した。これらマルチスケールのデータは迅速に統合・公開されることで、救助や復旧活動の基礎情報として機能する。

地形学的にも特筆すべき成果は、能登半島北岸における最大4メートルにも及ぶ顕著な海岸隆起の定量化が行われたことである (図1)。UAS やモバイル Lidar で取得された3次元点群データから、地震前は海水面下にあった平坦な波食棚の地形を抽出し、これを地震前の潮位データや、干上がった付着生物の分布高度と比較することで、広範囲かつ高精度に隆起量を算出した (Goto *et al.*, 2026)。

こうした海岸域での劇的な景観変化は、多くの漁港で船が入り不能となる事態を



図1 UAS-SfMにより計測された能登半島鹿磯漁港の隆起ベンチの3Dモデル。小倉拓郎氏提供。https://skfb.ly/oSPqn

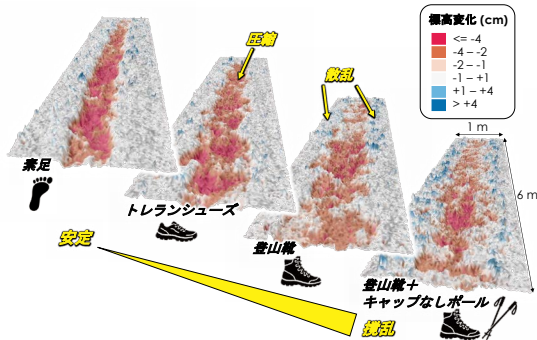


図2 踏圧による登山道路面の変形実験結果。素足の歩行は影響が小さく、キャップなしボール併用の登山靴で土壌の攪乱が最も大きい。



図3 遺跡や洞窟、山などの3D地形模型の展示を通して、文化財や里山を解説する田村裕彦氏。

引き起こし、地域社会の生業や文化に壊滅的な打撃を与えた。3次元計測技術は、この自然現象の解明にとどまらず、人間社会への影響についても、ひとつの連続した空間データとして可視化することができる (Ogura et al., 2025)。

## 鮮明化する人と自然との接点

広域の地形把握だけでなく、人間活動と自然環境が拮抗する最前線、すなわち登山道の研究においても、3次元計測技術が変革を引き起こしている。国立公園等の山岳地域では登山道の荒廃が深刻な課題となっているが、杭や定点写真による従来のモニタリングは「点」や「線」の情報に留まり、複雑な凹凸をもつ地表変化や土砂移動のメカニズムを解明するには限界があった。

近年の SfM-MVS や Lidar の導入は、地表面をミリ単位の「面」や「立体」として捉えることで、この課題を解決する。たとえば、登山靴やポール等の装備が土壌に与える影響について、高精細3次元データを用いた比較実験を行うと、侵食量の多寡だけでなく、装備により土壌を変形させるプロセス自体が異なることが明らかになった (Hayakawa et al., 2025)。登山靴による踏圧が主に土壌を鉛直方向に押し固めるのに対し、鋭利な石突を持つポールは土壌に穴を穿ち、周囲をほぐして水平方向に土壌を拡散する(図2)。圧密と破砕が繰り返され、ほぐされた土壌は雨や融雪などで容易に流出し、深刻な侵食の起点となる。対照的に、柔らかい靴底のトレランシューズや素足では攪乱は抑えられ、地表面の変形は軽微な沈下にとどまる傾向が確認された。

このように、3次元計測は侵食の結果だけでなく、「なぜ、どのように削れているのか」というプロセスの解明を可能にした。これは経験則に頼る従来手法に対し、科学的根拠に基づいた順応的な管理への道を拓くものである。地質や植生条件に応じた

ポールキャップの推奨や木道の敷設など、データの裏付けをもった具体的で効果的な保全対策が提案できるようになる。また、自然との接し方として、素足で山を歩くことへの価値が、環境負荷の観点からも再評価されるだろう。

## 科学と社会の架け橋として

技術の進化は、スマートフォンへの Lidar 搭載や、UAS の低価格化や操作性の向上を実現させ、「測る」行為を専門家の特権から開放し、だれでも手軽に測れる時代をもたらした。これは、フィールド科学や環境管理のあり方を根本から変えつつある。

たとえば、広大な国立公園の管理において、少数の専門家だけで全てのトレイルを監視し続けることは不可能に近い。しかし、公園管理者や多くの登山者自身が、手持ちのスマートフォンで日常的に足元の変化を記録し、3次元データをクラウドで共有する仕組みができればどうだろうか。広大な自然公園を、市民の集合知によってくまなくモニタリングし、きめ細やかなメンテナンスを行うことが現実味を帯びてくる。

災害対応でも、地域住民が平時から UAS の操作やデータの扱いに習熟し、有事の際には即座に被災状況を撮影する体制が構築されつつある (DRONEBIRD: <https://dronebird.org/>)。専門家の到着を待たず、地元の手で広範囲かつ高精細な状況把握が行えるのである。

蓄積されたデータは過去への扉も開く。

遺跡や古地図と現在の地形情報を統合して古景観を復元し、VR 技術で博物館や学校、そして地域の現場で提示する (SOCRAH: <https://socrah.jp/>)。あるいは3D プリントで実体化し、見て、触って、感じてもらう (図3)。こうした体験は、単に「昔はこうだった」という知識を与えるだけではない。そもそも、過去の景観を正確無比に再現することは、タイムマシンでもない限り不可能である。断片的な証拠の隙間をつなげるイメージを、3次元のインタフェースを介して観察者の頭の中に展開すると、そこには人々の営みと自然環境が織りなす有機的な景観が立ち上がる。一見無機質な高精細3次元データは、単なる空想とは一線を画した「地理的想像力」を喚起するのである。3次元計測技術は単なる測定ツールを超え、専門知と市民知を融合させた、科学と社会を繋ぐ新たな架け橋としての役割を担い始めている。

—参考文献—

- Goto, H. et al. (2026) *Geomorphology*, 493, 110069
- Hayakawa, Y.S. et al. (2025) *Environmental Challenges*, 18, 101107.
- Ogura, T. et al. (2025) *J. Disaster Research*, 20, 401-409.

### ■一般向けの関連書籍

内山庄一郎 (2020) *新版 必携 ドローン活用ガイド—災害対応実践編—*, 東京法令出版。



### 著者紹介 早川 裕弐 Yuichi Hayakawa

北海道大学地球環境科学研究所・准教授

専門分野：地形学、自然地理学、山地流域から海岸域まで、地球表層環境のモニタリングや空間解析により、それぞれの場所における自然現象と人の活動とのつながりを鮮明化する研究に取り組んでいる。

略歴：東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。博士(理学)。日本学術振興会特別研究員 PD、東京大学空間情報科学研究センター准教授等を経て現職。

# 理科年表 2026

国立天文台 編

丸善出版

2025年11月, 1224p.

価格 ポケット版1,500円/机上版3,200円(本体価格)

ISBN ポケット版978-4-621-31182-0 / 机上版978-4-621-31181-3



あつむ  
スイス国立工科大学 環境システム学部 大村 纂

## 「理科年表」100周年記念に寄せて

私と理科年表の付き合いは長い。父の書齋に背中の焦げた本がぎっしり詰まった本棚が一つあった。父の応召中の昭和20年3月の東京大空襲で本郷真砂町にあった家が焼け落ちたときに2階から外へ転がり出した本棚だった。ぎっしり詰まっていたため1冊もこぼれず奇跡的に難を逃れた。難しそうな本が詰まっているように見えて触ったこともなかったが、その中で背の丈が他の本の半分満たない本が1冊あるのが気になっていた。高校に入って自由な時間が増えたためか、生まれつきの好奇心のためか、その背の焦げた小さな本を開けたのが、私と理科年表の永い付き合いの始めとなった。高校で学んでいた理科や人文地理の知識で充分内容が理解できるように解説されていた。特に多くの情報が表にまとめてられている編集方式は文部省検定教科書にはないまとめ方で、自分の思考力で法則性を探る良い刺激となったと思っている。乏しい小遣いから捻出して日本を離れる昭和41年まで毎年理科年表を購入したものだ。

カナダで大学院生活を送っていたころ私が頻りに手にしていた理科年表を覗き見し

ていた英国人の同級生が、暦部、国民の祝日の表を見て祝日は1年にほんの9日しかないのに驚き、日本人は最も勤勉な民族だと感心していたのを思い出す。昭和45年にスイスに落ち着き、国立工科大学(E.T.H.)で初めて自分なりに考えていた気候学の講義をできるようにしてから座席の本としてお世話になってきた。伝統的に記載で始終していた気候学ではなく物理に基礎を置く気候成因論を中心にした講義をしたかった。この分野はまだなかったが地球科学の重要な問題である気候変動の基礎となるような講義に必要な情報が理科年表は手際よく整理されてある。暦部にある時間の定義や太陽時の計算に必要な均時差などが極めて簡潔に提示されている。物理/化学部の物質の諸性質は最も頻りに参照する。例えば、フィールド観測に必要な熱電対を選ぼうとすると、多くの金属の起電力が表で提示されておりその場で選択できる。気象部の諸気象要素の表は生活に直結する諸量に再計算されてあるだけでなく準周期的に新しい期間の観測値に改定されるので、それらを繋げると自ずと気候変動の実態を見ることが出来る。火山噴火の年表などは気候変動を解釈するのに便利な情報でもある。近年には生物部が導入され、さらに環境部が追加されたのは科学の進歩に

沿うだけではなく社会の要請に応えるための極めて的確な対応と言える。筆者が離日した後に追加された部分は目新しく見えて専門の分野でなくとも見入ってしまう。生物部の無脊椎動物の寿命などは多種の生物が表にされて初めて見るものでアイスランドガイなどというのが507年などというのには驚かされる。「記録された最長寿命」とはいえヒトの何倍もの寿命ではないが、だいふ前の話になるが、東宝の制作で「私は貝になりたい」などという映画があったのを思い出す。

理科年表の強みは、情報の総合力と多様な情報を簡潔に「表」にして提供しているところにある。表にしてあると多くの事柄が一目でわかる。例えば先述した国民の祝日はいつの間にか16日にもなっている。振替日曜日を数えると世界でも稀な休日の多い国になってしまった。気象や地震災害の年表は世界でも稀な表で理科年表ならではの濃縮された情報である。

このような内容を持つ理科年表は世界でも稀な定期出版物に属する。筆者の周りのヨーロッパにおける出版物で理科年表に類似するものは見当たらない。高校3年から大学教養1年生を対象にした数物化地生を1冊に網羅した出版物はあるが、どう見ても大学の理科や工学向けの説明的な参考書といえるもので、一般の知識人を対象に網羅した多くの事象を表の形式で整理したものではない。理科年表のようなものがヨーロッパで出版されると便利をする人々が多いことであろう。

暇な時には「主な発明及び発見」の表を見て科学の進歩/変遷の歴史を考えたり、「ノーベル賞受賞者、受賞理由」の表などを見て優れた研究者の横顔を見るのもまた楽しい。

## 創刊100周年! 理科年表 2026



国立天文台 編

ポケット版

A6判・1224頁 定価1,650円(税込) ISBN978-4-621-31182-0

机上版

A5判・1224頁 定価3,520円(税込) ISBN978-4-621-31181-3

歴史と信頼のある科学データブックの最新版

「暦」「天文」「気象」「物理/化学」「地学」「生物」「環境」の分野ごとに、地震、異常気象など、自然科学の全般を網羅。ホットなサイエンスの話題が読める「トピックス」も盛りだくさん。

## 数理の目で見る地球科学



大好評につき重版出来!

泉 賢太郎 著

A5判・138頁 定価3,300円(税込) ISBN978-4-621-31234-6

数理の視点から考える地球科学入門

物理学・化学・生物学に基づく普遍的な原則から地球科学の諸現象について考察します。全体を通して「数理モデル」によるアプローチを積極的に採用し、地球科学について一定の知識がある読者でも新しい気づきが得られるような一冊。

丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17  
<https://www.maruzen-publishing.co.jp/>

## 貴社の新製品・最新情報をJGLに掲載しませんか？

JGLでは、地球惑星科学コミュニティへ新製品や最新情報等をアピールしたいとお考えの広告主様を広く募集しております。本誌の読者層は、地球惑星科学に関連した大学や研究機関の研究者・教育者・学生等ですので、そうした読者を対象としたPRに最適です。発行は年4回、学会webでPDF公開し一般の方にもご覧いただけます。広告料は格安で、広告原稿の作成も編集部でご相談いたします。どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。詳細は、以下のURLをご参照下さい。  
<https://www.jpgu.org/jgl-advertise/>

### 【お問い合わせ】

JGL 広告担当 宮本英昭  
 (東京大学 大学院工学系研究科)  
 Tel 03-5841-7027  
[hm@sys.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:hm@sys.t.u-tokyo.ac.jp)

### 【お申し込み】

公益社団法人日本地球惑星科学連合 事務局  
 〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16  
 学会センタービル4階  
<https://business.form-mailer.jp/fms/e5badf57110912>

### 個人会員登録のお願い

このニュースレターは、個人会員登録された方に送付します\*。登録されていない方は、<https://www.jpgu.org/>にてぜひ個人会員登録をお願いします。どなたでも登録できます。すでに登録されている方も、連絡先住所等の確認をお願いします。

(※)現在一時的に送付停止中です。PDFでご覧ください。  
<https://www.jpgu.org/publications/jgl/>

## JpGU-AGU Joint Meeting 2026

# Plenary Lectures

JpGU-AGU 2026ではランチタイムにプレナリーレクチャーを開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

**日時** 2026年5月25日(月)～28日(木)のランチタイム

**会場** 幕張メッセ国際会議場 コンベンションホールA (CH-A)

25  
MON

### Presidential Forum Lecture



**Prof. Kate Kitagawa**

La Trobe University, Australia

26  
TUE

### Frontiers of Science Lecture



**Prof. Shang-Ping Xie**

University of California San Diego, USA

27  
WED

### Leadership Lecture



**Prof. Karin Markides**

Okinawa Institute of Science and Technology, Japan

28  
THU

### Frontiers of Science Lecture



**Prof. Jun Korenaga**

Yale University, USA

**JGL**  
Japan Geoscience Letters

日本地球惑星科学連合ニュースレター

日本地球惑星科学連合ニュースレター Vol.22, No.2

発行日：2026年5月1日

発行所：公益社団法人日本地球惑星科学連合  
 〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16  
 学会センタービル4階  
 URL <https://www.jpgu.org/>

お問い合わせ：<https://www.jpgu.org/inquiry/>

編集者：広報普及委員会

編集責任 東宮 昭彦

編集幹事 橘 省吾

デザイン：(株)スタジオエル

<https://www.studio-net.co.jp/>

印刷所：株式会社 AC サポート

